鳥取市議会予算審査特別委員会文教経済分科会会議録

会議年月日	令和7年3月12日(水曜	[日]	
開会	午前11時0分	閉会	午後3時24分
場所	市役所本庁舎7階 第2	委員会室	
出席委員	分科会長 石田憲太郎		
(8名)	 副分科会長 中山 明保		
	 分 科 員 柳 大地	水口 誠 金田	靖典 西村紳一郎
	長坂 則翁	砂田 典男	
欠 席 委 員	なし		
委員外議員	なし		
事務局職員	参事兼調査係長 遠藤	全 議事係主任	任 橋本 圭司
出席説明員	【経済観光部】		
	経済観光部長 大野	正美 次長兼経済・雇用戦略課	長 渡邉 大輔
	経済・雇用戦略課課長補佐 岩崎	勝紀 経済・雇用戦略課地域経済(長 保﨑 克巳
	経済・雇用戦略課雇用政策係長 鈴木	元気 スマートエネルギータウン推進	镊 大角真一郎
	日本 日	淳 次長兼企業立地・支援課	張 福山 博俊
	企業立地・支援課参事 田中	英利 企業立地・支援課課長補	推 能勢 光介
	企業立地・支援課誘致・振興係長 山根	裕史 観光・ジオパーク推進課	長 平井 宏和
	観光・ジオパーク推進課参事 中本	恵 観光・ジオパーク推進課課長補	誰 川口 隆
	観・ジオパーク推進観光機係 岩田	宜真 経済観光部参	事 川口 泰弘
	【農林水産部】		
		武夫 農政企画課	長 増田 泰則
		達引・農政企画課担い手支援係	
		保朝 農政企画課鳥獣対策係	
		泰弘 林務水産課課長補	
		保州 次長兼農村整備課	
	 農村整備課課長補佐 大和谷	雅人	
	【農業委員会】		
	事務局長川口	悦代 局長補	左 広谷 英之
	農地係長堀	春樹	
傍 聴 者	なし		

会議に付した事件

別紙のとおり

予算審査特別委員会文教経済分科会に切替え 午前 11 時 0 分 開会

【経済観光部】

◆石田憲太郎分科会長 それでは予算審査特別委員会文教経済分科会を開会します。本日の分科会について、次の点を確認をさせていただきます。討論、採決を行うことはできません。各部の審査終了後、分科会長報告に盛り込むべき事項の協議を行い、最後に全体の取りまとめ、委員長報告に盛り込むべき事項の協議を行います。分科会長報告は、審査時における質疑、答弁、意見を報告するもので、発言のなかったものは報告できません。分科会長報告はこの分科会で確認します。皆様の御協力をよろしくお願いいたします。

また、審査に先立ちまして申し上げます。質疑及び説明、答弁は簡潔にしていただきますよう、執行部及び委員の皆様にお願いします。

【経済観光部】

議案第11号令和7年度鳥取市一般会計予算について(質疑)

- ◆石田憲太郎分科会長 それではまず、議案第11号令和7年度鳥取市一般会計予算のうち、所管 に属する部分を議題とします。質疑を行います。質疑のある方は挙手お願いします。柳委員。
- ◆柳 大地分科員 事業別概要書の 162 ページです。ちょっと先ほどの続きということで、一応 ちょっとお金のところは、僕、一応分けてたつもりで、お金に関して今度聞きたいと思います。 まちなかビジネス・コミュニティ拠点整備事業費についてです。まちなかの活性化だって、こ の商店街のほう埋めていくということであれば、この予算感で言えば例えば仮にですけど、月 25 万で24か月2年間32店舗支援できるぐらいの金額だと思うんですね、もう毎月シンプルに 賃貸料をとにかく補助し続けて、32店舗2年間補助できる金額って1.9億っていうので大丈夫 ですか。それで、仮にこの国からの支援入れないとしても1年ぐらいシンプルに家賃補助し続 けられるっていう32店舗ですね、っていうこともあると思うんですけど、それ以上の価値がこ の1か所に集積させていくっていう、何か費用対効果的なところ、どう考えていますでしょう か。すみません。32 店舗というのは、この1億9,000万円を25万円で割って24か月で割ると 32 店舗っていう、これ特に執行部側から出ていることじゃなくて、この金額を仮に同じ金額を シンプルに、ただ、家賃補助として充てると月 25 万円、あそこの商店街多分月 20 万、月 30 万ぐらいすると思うので、それぐらい25万円を2年間補助するとしても32店舗支援できるっ ていう、もう家賃はこっちが面倒みるからとにかくスタートアップしてくれっていう、企業進 出してくれっていうようなシンプルな支援の仕方もあると思うんですけど、この金額で。あえ てビルをまるっと作り直して1か所に集積させて、この投資金額よりも上乗せできるっていう ような、何かそこの意味合いとか、費用対効果みたいのを、イメージを教えてください。
- **◆石田憲太郎分科会長** 福山次長。
- ○福山博俊次長兼企業立地・支援課長 お答えします。今、お話にあった柳委員さんからの話と

しては、基本的には空き店舗補助に近いようなものかなと思いまして、私も以前、商業振興係長とかやっておりましたので、商店街もかなり関わりましたが、この事業は一時的には商店街の空き店舗を埋めていこうということではなくて、あくまでも駅前、駅周辺の駅前再整備と連動して、そのエリアの中に新しいみんなが集まれるような、人の出入りがあるような場所を1個つくるというところでして、実は先ほど企業誘致の話をしましたが、基本的に今の構想として、例えばここに企業誘致します。ずっとここに居続けるのではなくて、例えば、昔、チャレンジショップとかもやっていましたが、ある程度期間を決めて、あるいは創業した若者が仮に入るとすれば、ある程度期間を決めて、それで、何年たった以降はこの周辺の違う店舗を見つけて、物件を見つけてそこに入ってもらうというようなイメージをしています。

ですから、ここがいわゆるスタート台というか、発射台というか、まず、ここからスタートした例えば若い子たちがまた周辺の物件に入っていくとか、ここから派生して広がっていくイメージを持っています。それで、誘致企業についても基本的にはそういった考え方も今、持ちながらやっておりますので、満遍なく空いたところを埋めていくのではなくて、あくまでも商店街の道沿いの部分を商店街区域といいますので、そうではなくてこのエリアですね、道路沿いじゃなくてこのエリアとして考えたときに、先ほど言いましたように、道路沿いだけを埋めるんではなくて、ここからこのエリアの中にそういう若手の経営者なりが広がっていく、そういうのをちょっとイメージしているので、こういう形に今、事業としては組立てをしたところです。以上です。

◆石田憲太郎分科会長 柳委員。

◆柳 大地分科員 例えばこの1億 9,000 万ぐらいをその 30 店舗一気に埋めるんだって、それは めちゃめちゃドラスティックだというか、すごいインパクト強いと思うんですよね。もう既存 の事業者から何と言われようとも一気に埋めるんだっていう30店舗、とにかく30店とにかく つくるんだ、すごい日本全国で見てもすごいインパクトあると思うんです。ただ、1億9,000 万かけてビル建てて、正直あんまり今のところ、ほかの自治体と遜色がないなっていうのが今 のところの印象で、確かに人口最少県というところをPRするっていうのはすごくいいところ だと思うし、ただ、正直ちょっと今の段階だと弱いなというのが、僕が正直に思っていて、何 かとにかく上場企業10年以内5社出すとか、何かそんくらい思い切って、あと、例えば社長が 35歳までじゃないと入れないとか、健康とか、美容系じゃないと入れないとか、僕はそこぐら いまで思い切らないと、何か無難な企業が集まりそうなイメージもしてて、というのも僕の前 の職場が多分鳥取だとすごく異例だと思うんですけど、8割以上県外から集まっていて、僕も そのうちの1人で、それで、僕も採用1年目からずっと関わっていたんですけど、ほぼほぼI ターンで入ってくるんですよね。それで、やっぱり教育業界だったら、もうとんでもない異例 な感じで掲げていたし、それで攻め込んでたし、だから、やっぱり全国から気合の入った若者 たちがすごい集まってくるという、今の形だと人口最小県っていうそこのPRと、もちろん熱 量というところ大切だと思うんですけど、ちょっと弱いなっていう印象なんですけど、入居企 業みんなで持っている目標とか、共通点みたいな、何かそんなところの攻め方、今イメージあ りますでしょうか。

- **◆石田憲太郎分科会長** 福山次長。
- ○福山博俊次長兼企業立地・支援課長 企業・立地支援課、福山です。今の御質問なんですが、 我々も実は、例えばよく誘致の中で食品系を基本的には迎えたいとか、そういった形で掲げて いくんですけれども、やっぱり実際の誘致の現場の中で、どうしてもこの業者ばっかり集める っていうのがなかなか難しいっていうのもやっぱり出てきます。ですので、そういう目標と現 実の部分を上手に我々もバランスを取りながら、誘致なりをやっていっておりますが、今のと ころ、ここに関しては都市部と地域をつなぐ関係人口の創出を中心にやっている企業さんであ るとか、あるいは交通問題、例えばこの前の自動運転なんかもそうなんですけども、ああいっ た形で地方の公共交通の維持をどうするのかということを専門にやっている企業さんとか、今、 実際にコンタクトを取っている企業さんとか、そういった企業さんがあるんですけれども、基 本的には今のところは、そういった課題を中心にやっていこうという部分と、あと、先ほど言 いましたIT系の部分ですね、そういったところを一応中心に据えていこうかっていうところ しかまだイメージとしてはないんですが、これからやっていく中で、じゃあ、こっちのほうに 特化してみようかとか、そういったことはいろいろ考えていかなきゃいけないのかなと。

それで、今、委員さん言われたように、どこにも地方、結構こういうのありますので、実は 鳥取市も10年ぐらい前から、こういったとこいるんじゃないかっていう話も、当時、私も創業 支援の係長やっていましたんで、議会とかでも質問とかもあったりして一時期考えてた部分も ありまして、それがようやく今回実現するのかなということです。それで、先ほども少し言い ましたが、あくまでもここで終わらせるんではなくて、それを周辺に波及させていきたいとい う中で、先ほどありました家賃補助を入れて二十何店舗っていうことも一つの方法としてある んですけども、実際やっぱり見ていただくと、中心市街地でやはり成り立つ業種っていうのは、 もうほぼ限られてきていまして、やっぱり飲食とか、あるいは散髪とか、あるいはリラクゼー ション系とか、いわゆるそこに来ないとサービスを受けられない業種でないと続かないってい うのもあります。

単なる物販とかで多分恐らく何年か家賃補助しても、すぐ駄目になってしまう可能性が高いということで、決して飲食ばっかりを集めようっていうことでは意図としてありませんので、どっちかというと、そういった仕事の場ということで、オフィス系を例えば空き店舗にも入れていくとか、九州のほうでの事例もありますが、そういったことがむしろどちらかというとお店屋さんじゃなくてそういうオフィスを展開させていきたいっていうイメージは持ってるところです。以上です。

- ◆石田憲太郎分科会長 多少完結によろしくお願いします。はい、柳委員。
- ◆柳 大地委員分科員 僕も別に家賃補助がいいと思ってるわけじゃなくて、やっぱり全国どこもこの1億とか何億かけてこのビル建てて、やっぱりあんまり上手く回ってるところ少ないなというのが正直な印象で、それってコンセプト設計だと思うんですよ、僕もやっぱりここに行く理由があるっていう、うちはこういう企業、人が欲しいんだって明確に出して、そこに共感した人たちが集まってくるっていう、なので、正直まだ始まったところですのであれなんですけど、やっぱり弱いコンセントで始まると、それで、あと、現実的な路線のコンセプトでいく

とやっぱり逆にとがった企業が集まらないと思うんで、もっと思い切ってのほうが若い人たちを集めるんであればいいいのかなって、若い人集めるにはもうビジョンですから、もうビジョンで、とんでもないビジョンで僕はそれでいいと思っていて、でも、それがというところがぜひちょっと僕はこの内容自体にはすごく賛成してて、なので、そこに期待をしています。お願いします。

- ◆石田憲太郎分科会長 この事業について重ねての質問等ございますでしょうか。金田委員。
- ◆金田靖典分科会員 ちょっと確認させてください。建て替えるっていう話を言っとられるんだけど、たしか1階から3階までの建物そのものを改修、内部改修するんですよね、基本的にはね。そこに県のほうから1億円っていう形で出てくるんですけども、補助のほうがね。ここに出てくる1億9,000万っていうのは、ほぼほぼビルの改修工事費なんですか、ちょっとこの1億9,000万の内訳を教えていただければ、ざっくりで結構です。
- **◆石田憲太郎分科員** 福山次長。
- ○福山博俊次長兼企業立地・支援課長 企業立地・支援課の福山です。内訳としては、この施設 改修の部分で約1億8,000万円、それから先ほど少し言いました都市部の企業に対するプロモーション、マッチングに係る経費として1,178万1,000円となっておりまして、それで、今の 想定としてはこの経費の2分の1に第二世代交付金、国の交付金を活用してそれにプラス県のまちなか地域コミュニティ系の補助金も充当するというような考え方です。以上です。
- **◆石田憲太郎委員** 金田委員。
- ◆金田靖典委員 それで、建物の改修で1億9,000万で、あと、こっちの、いただいた資料のプランの案の26ページなんですけども、ここに鳥取先駆型ラボ誘致・育成補助金、それから鳥取市オフィス移転・新設支援事業補助金、それからその下のほうに鳥取市情報通信関連企業立地促進補助金っていうような形で助成制度が載っかっているんですけども、このたびの当初予算の中にもそれに関連する補助金がそれぞれ組んであるんですけども、やっぱりここに向かっての補助として考えればいいんですか。
- **◆石田憲太郎分科員** 福山次長。
- ○福山博俊次長兼企業立地・支援課長 26ページの助成制度というのは、これまでも既に動いている制度でして、先ほど柳委員さんからもありましたが、中心市街地の例えば空き店舗も含めて、そこにオフィスを誘致するための補助で、県のほうと市とでどちらも併用できるという形でやってきておるものです。ですので、今回の拠点に特化してつくった制度ということではありません。以上です。
- ◆石田憲太郎分科会長 金田委員。
- ◆金田靖典分科員 ですので、例えば事業別概要 165 ページの上段のデジタル人材育成・活用プログラム実践事業費というのが 1,500 万、県と折半、これもだからこの事業の中に組み込まれていくんですかと聞いたんですけど、と理解でいいんですかね。
- **◆石田憲太郎分科会長** 福山次長。
- ○福山博俊次長兼企業立地・支援課長 お答えします。事業別概要 165 ページのデジタル人材育成・活用プログラム実践事業、これは基本的には今の拠点のまちなかビジネス・コミュニティ

再生プランのこの拠点施設とは連携しながらやる形になります。ですから、例えばIT人材の 育成とか、プログラムとか、講習とかを、例えばこういったとこでやっていったりとか、いう 想定はしているところです。以上です。

- **◆石田憲太郎分科会長** 金田委員。
- ◆金田靖典分科員 全てがそうではないんでしょう。もう1つ確認させてください。161 ページ の企業立地促進補助金というのが、ここにもそういうなんで1億8,000万、4つの事業で組み 込まれているんですけども、これもこれに関連する事業としても、当然事業としても組み込ん でいくという考え方いいですよね。
- **◆石田憲太郎分科会長** 福山次長。
- **〇福山博俊次長兼企業立地・支援課長** 現時点の想定としては、この拠点施設に入られる企業さんも対象ということで考えているところです。以上です。
- **◆石田憲太郎分科会長** 金田委員。
- ◆金田靖典分科員 分りました。建物改修で1億というので、1億9,000万か、だったですけど、 どうも見てみるとそうやっていろいろな事業のほうが、このたびの7年度でかなり圧力がかか って、これに向って動いているんだなというのがよく分る予算の中身だったなと思ったもんで すからね。ありがとうございました。
- ◆石田憲太郎分科会長 これに関連してございますか。中山副委員長。
- ◆中山明保分科副会長 中山です。先ほどから報告事項について皆さんからいろいろと御質問等もありまして、予算書のほうに、まちなかビジネス・コミュニティ拠点整備事業費 1 億 9,200 万、これに関連してということで、今後この予算についての報告書をまとめるに当たりまして、これ報告の中に、先ほどの説明の中も取り込むような形で御了解をいただければいいかなと思うんですけど、事務局だめですかね。
- ◆長坂則翁分科員 今言うことではないが。
- ◆中山明保分科副会長 いや、ちょっと確認をと思ってです。分りました。すみません。私が不 勉強なもんで。そういうことで、この一番新規事業でもありますし、先ほどから柳議員も一生 懸命言っていただいとって、これ目玉商品じゃあないかなと私、思いますし、石田委員長も一 般質問等でまちなかの企業誘致等のことについても一生懸命言っていただいとって、これ非常 に積極的な加藤紙店の跡地を、建物を再利用して企業誘致しようということだというふうに理 解しているんですけど。ということなので、これ第1発目で、今後これがどういう結果が出て くるかというのは、やってみな分からんというとこもあると思いますし、テレビのニュース何 かでも、全国的にこういうことをどんどん、今、柳議員もさっき言っとんさったですけど、そ ういうことだと思いますので、この事業についての予算化が複合的にほかの予算とも関連して やられということも聞きましたんで、そういうことを積極的にやっていただきたいというふう に思います。以上です。
- ◆石田憲太郎分科会長 そのほかの委員さんから、この事業に関連して、いいですか、この事業 については、では、ほか質疑は、長坂委員。
- ◆長坂則翁分科員 ちょっと聞いてみたいんだけども、毎年観光ボランティア活性化事業費で上

がってきますよね。それで、確かにそこそこ4年度、5年度、6年度の実績を見ると7年度も そんなに変わらんのだけども、一体全体ボランティア育成、いわゆる観光客の満足度をどう高 めていくのかっていうことで、観光客を増加をさせていくためには、やはり観光ボランティア の活動って非常に重要な要素をなしてくるし、他都市に行って見てもやっぱりかなり進んでお るところもあるわけですよね。

この事業、マンネリ化しとるんじゃないですか。例えばその観光ボランティアのガイドは、 どの程度増えてきたんですか、現状はどれぐらいあって、以前はどれぐらいの人数だったけど も、僅かでも増えとるのか、減っておるのか、そして何も今の地域だけに限定する必要がある のか、ほかにも地域を拡大をして、やっていける要素のある地域もあるんじゃないかと思うん だけども、その辺のこの事業の観光ボランティア活性化事業費の関係について、ちょっともう 少し説明してください。

- ◆石田憲太郎分科会長 事業 166 ページの上段のこれですね。もしよろしければ事業が分かる場合、ページも併せて言っていただけたらありがたいと思います。平井課長。
- ○平井宏和観光・ジオパーク推進課長 そうしますと観光ボランティア活性化事業費の今、御質問をいただきました。ガイドの団体はちょっと数字の比較というところまでは、我々も古い団体の分は把握できているんですけど、実はさっきの話にもございましたけども、例えば令和直近でいくと、令和5年度に例えば鳥取まちなかガイドの会という組織が立ち上ったり、あるいはこの令和6年辺りからは、佐治町の観光ガイドクラブさん、それから例の新聞にも出ましたけど、福部町の多鯰ケ池のチーム多鯰ケ池というようなガイド団体さん、こういったことが新たにこのガイドの事業のほうにも登録をされたと、以前からは白兎周辺のウオークガイドのOMUさんとか、歴代平成16年、平成15年とか古い時代からやっているガイドさんも含めていきますと、現在この事業に大体12団体が登録をいただいているというような状況がございます。ただ、じゃあ、その1団体当たりのガイド団体の数はというと、これは基本的にやっぱり現状を維持しているか、やはりどちらかというと維持か減少しているというところが、特に歴史のある団体さんに関しては多いかなというふうな認識は持っております。

ただ、先ほども申し上げましたように、新たなガイド団体がこうやってできたり、その活動をこの事業をもって、例えば支援もしたりする中で、マンネリというようなお話もありましたけども、例えばガイド団体さんと、いわゆる先進地の視察研修をしたりとか、そういった取組なんかもしながら、例えばそういう新たに立ち上ったガイド団体さんには、例えば備品とか、必要な経費というものもこういった団体の中で支援をしながらやっておりますので、何とかそういう息の長いガイド団体の活動を我々としても支援していきたいなって思いでいるところです。以上でございます。

- ◆石田憲太郎分科会長 長坂委員。
- ◆長坂則翁分科員 ですから、もっと例えばボランティアガイドを増やす努力をしていかなきゃあいけんと思うんですよ。もちろん行政だけの責任じゃなしに様々なそれぞれの団体の皆さんも努力はしてもらわなきゃあならんのですけども、問題はやっぱりさっきちょっと触れましたように、いかに観光客を増やしていくのか、それで、その観光客にどう満足していただくのか、

これが基本になろうかと思っていますから、もっともっと観光ボランティアガイドの育成強化を強力に推進をしていただきたい、このことだけを申し上げておきます。以上です。

- ◆石田憲太郎分科会長 これにつきまして関連、何かございますか、それではそれ以外で質疑ご ざいます方は、西村委員。
- ◆西村紳一郎分科員 164 ページの上段の農商工連携マッチング事業費です。福山次長、これ、 ずっといろんな事業をやって来て、また、市場調査なんかもして、商工会の事業委託というこ とがあるんですが、この成果と今後どういう取組されようとしているのか、そこを概要を教え てください。
- **◆石田憲太郎分科会長** 福山次長。
- ○福山博俊次長兼企業立地・支援課長 お答えします。この農商工連携マッチング事業ですが、今、西村委員さんから御紹介があったとおり、鳥取商工会議所への委託事業ということでこれまでやってきております。以前は、経済・雇用戦略課のほうが所管しておりましたが、ある時期からこの企業・立地支援課のほうに移管されておるものです。7年度の予定としては、支援事業社数は25社を想定しているということで聞いております。具体的な中身ですけれども、幾つかありまして、1つは、まず何と言ってもマッチング支援、6次産業化推進支援ということで農林漁業者と商工業者とのマッチング支援、あるいは6次産業化推進コーディネート。

2つ目に鳥取産品のトータルサポートということで、鳥取で食べて買ってもらえる新商品メニュー開発支援、あるいは鳥取産品のリニューアルの支援、あるいは農工商連携推進セミナー等の開催というのが上がっております。3つ目に鳥取産品のお披露目事業ということで、販売促進のPR支援、展示会などへの県内外での展示会とか、フェアへの参加を積極的にやっていく、4つ目に専門家アドバイス事業ということで、商品開発技術の習得であるとか、経営改善等の課題解決の個別相談の実施、そして5つ目に販売開拓商談支援や市場調査ということで商談会などでの支援事業の周知であるとか、連携機関と販売アドバイザーとの連携とか、あるいは商談展示会へその業者さんと一緒についていく、その後のフォローなど、そういったことを予定しております。以上です。

- **◆石田憲太郎分科会長** 西村委員。
- ◆西村紳一郎分科員 重要だと思っていまして、農商工の連携っていうの、大変難しいと思っと るんです。そういうことで商工会議所と十分連携を取りながら、本当にうまく一次産品と加工 品そういう商品がマッチングして新しい商品が開発されることを期待するわけですが、そこら 辺の基本的な考え方を教えていただけたらと思います。
- ◆石田憲太郎分科会長 福山次長。
- ○福山博俊次長兼企業立地・支援課長 企業・立地支援課、福山です。おっしゃるとおりでして、実はこの事業名、農商工連携というふうになっていますが、もちろんこの前も中小企業経営審議会の委員さんから農だけですかって言われまして、これは6次化ということですので、もちろん農・林業、水産業も含めて農林水産業と商業と工業の連携事業ですということでお話をしたんですけれども、基本的にはやはり素材はまだまだあるんではないかと、その素材をどういうふうに工夫をこらして商品にするか、作り方もですし、売り方もですし、どこに売っていく

のかもそうですし、パッケージもそうですし、そういったことで、まだまだ工夫の余地はある んじゃないかというのが会議所としての見解でして、あとはその事業者さんのやる気の部分も あります。

それで、昨年のちなみに実績としては、マッチング支援ということで 31 社、それから専門家によるアドバイザー支援として 12 社、それから販路開拓商談支援として 44 社、こういったかなりの実績も上がっておりますので、引き続き我々も商工会議所さんに丸投げではなくて、一緒にやっていきたいというふうに思っているとこです。以上です。

- ◆石田憲太郎分科会長 これについては、ほか関連ありますか。それではそれ以外、また御意見 ございますか。質疑がございます方は、柳委員。
- ◆柳 大地分科員 事業別概要書 163 ページの関係人口推進事業費について教えてください。150 ページのSDGsの未来都市推進事業の内容②にもワーケーション開発というのが書いてあるんですけど、まずこことの違いを教えてください。
- **◆石田憲太郎分科会長** 福山次長。
- ○福山博俊次長兼企業立地・支援課長 SDGsの未来都市の件は大角室長からお答えさせていただきますので、私のほうはこの関係人口推進事業費のほうですが、具体的には、実は鳥取ワーケーションネットワーク協議会というのを設置をしております。これは鳥取東部の官民で組織する組織でして、会長は鳥取商工会議所の児嶋会頭になっております。これには鳥取県も参画をしていただいております。具体的にはこの協議会に対する運営補助という形でして、具体的に、じゃあ、この協議会がどういうことをやっているかといいますと、令和7年度の事業計画でいきますとやはり何と言っても情報発信ということで、このエリアを積極的に首都圏、都市部に対して売っていくということで、そういったマッチングイベントであるとかに対して協議会として参加をしていく中で、情報発信しつつ、実際の企業さんと結びつきをつくって鳥取に招聘していくという部分で、実は関係人口と言いながら、その先には企業誘致とか、あるいは移住とかそういったところも視野に入れながらやっております。

もう1つは受入れのほうでして、実際に課題を設定して、例えば2泊3日とか、そういった 日程で全国に声かけをして、そういった企業さんとか、あるいは企業以外の個人の方も含めて 鳥取に招聘して、そこでさっき言いましたような宿泊型の、いわゆるキャンプというか、そう いったツアーをやる中で、地域の課題を一緒に考えてもらったり、あるいは地元でキーマンに なる人たちと交流をしたりというようなことをやっていくっていうイメージです。以上です。

◆石田憲太郎分科会長 大角室長。

○大角真一郎スマートエネルギータウン推進室長 スマートエネルギータウン推進室、大角でございます。SDGs未来都市に計上しておりますラーニングワーケーションの取組の内容でございますけども、この企業立地・推進課の関係人口推進事業費とはかなり密接に連携しながら取り組んでいっているといったところでございますが、SDGs未来都市のラーニングワーケーションはこれまでも取り組んでおりますが、地域課題解決をしていくために、いわゆる越境研修というような取組を行っていく団体に対して支援を行う内容になっております。

それで、これまで鹿野町とかで空き家の解決であるとか、使われていない資源をリサイクル

していくようなことを県外の企業さんを招聘して、長期間そういった課題を解決していくためのプログラムをつくって実施をしたりとか、そういったようなことを行っておりまして、そういった取組への支援ということで補助金を計上しているといったものでございます。以上です。

- **◆石田憲太郎分科会長** 柳委員。
- ◆柳 大地分科員 ワーケーションいろいろ分類があると思うんですが、開発型とかブレジャー型とか、それで、市として両方の事業が狙ってるターゲットが違うのか、それとも、もう市としてこういう分類狙ってるとか、もしくはターゲット層、こういうところのターゲット層狙っているっていうようなのがあれば教えてください。
- ◆石田憲太郎分科会長 福山次長。
- ○福山博俊次長兼企業立地・支援課長 企業・立地支援課、福山です。こちらの関係人口推進事業費のイメージとしては、どちらかというと、この鳥取に関わるまず、きっかけをつくっていこうという、その入り口のところをつくっていこうというのがありまして、それで、基本的に、先ほど言いましたように、これ補助ってなっていますけども、そのネットワーク協議会自体が、官民、行政も、私どもも含めて、あるいはDMO、麒麟のまち観光局など、そういった半分公的なとこも含めての主体になっていますので、どちらかというと企業さんの取組、先ほどありました例えば能率協会さんであるとか、そういったところに対して補助するっていう取組ではなくて、あくまで行政も含めて一体で主体的にやっていこうっていうイメージであります。以上です。
- ◆石田憲太郎委員長 柳委員。
- ◆柳 大地分科員 ちょっとすみません。サイトのほう見ると、ワンストップ窓口として、商工会だとか、麒麟のまち観光局、ワンストップ窓口としてそこを押すと麒麟のまち観光局サイトに飛ぶんですけど、その飛んだ先に全くワーケーションに関する記載がなくて、このワンストップ窓口って、これ今、どういった対応を想定していますでしょうか。
- **◆石田憲太郎分科会長** 福山次長。
- ○福山博俊次長兼企業立地・支援課長 企業・立地支援課、福山です。今の御指摘は、実はまさに今、そういった課題があったものですから、それを一本化したいということで、今、観光コンベンション協会のホームページのほうに統合していこうということで、基本的に鳥取に来たいとか、何かあればそこをまず、見ていただいて、そこからつなげていこうっていう形にしております。

- ◆石田憲太郎分科会長 柳委員。
- ◆柳 大地分科員 また、後ほどちょっと資料提供出させていただこうと思うんですけど、ちょっと僕、長野の立科町っていうところに視察に行ってきて、ここが年間 500 人以上ワーケーシ

ョンを受け入れているっていう団体なんですけど、ここはやっぱり受け入れるために窓口が一本化されて、まず、基本的にそこが予約もそうです、その周辺施設の予約も支払もそこに一括でまとめてるっていうのと、あとは、そこはもう合宿型に特化していて、企業から最初の1通目が来たら必ず2時間以内に全行程を返信するっていうのを徹底してるみたいなんですよね。

それで最初からホームページの情報もWi-Fiありじゃなくて、Wi-Fiも、Wi-Fiも、Wi-Fiスピードが幾つだっていうのも全て提案しているっていうので、やっぱりワーケーション集めてる自治体ってやっぱり全然取組が違うというか、なので、やっぱりワーケーション狙いに行くんだったらこれぐらい、それも委託に出すんだったらここぐらい求めたほうがいいんじゃないかなっていうのと、あと、やっぱりワーケーションと企業立地とか、企業誘致が正直、僕、あんまりつながるように思えなくて、やっぱりきっかけっちゃあきっかけだと思うんですけど、やっぱり僕、ワーケーションと企業立地とかって別物だと思うんですけど、やっぱりそこはワーケーションを入り口にするっていう方針は今後もあるようなところなんでしょうか。

◆石田憲太郎分科会長 福山次長。

○福山博俊次長兼企業立地・支援課長 企業・立地支援課、福山です。実は鳥取市のワーケーション取組というのは、当初御存じのようにコロナの関係で、全国的にワーケーション、いわゆるワークとバケーションということで、イメージとしては観光型のワーケーションということ、本当に家族と来て、お父さん仕事してる中で家族はちょっとどっか行ってるとか、そういうイメージが当初あったんですが、実際はなかなかそういうユーザーっていなくて、その中で、実は今年度からこのワーケーションネット協議会もやはり方向性をそっちじゃなくて、やはり課題解決型、実際にテーマなり設定してここに来る、何月何日鳥取でこういうコンベンション的な集まりをやりますと。それでこういうツアーやりますという形で来てもらって、その中で課題、現場を見てもらいながら、現地と交流しながらやってもらうというようなイメージに転換していこうということにしています。

その中で先ほど言いましたように、実際にさっきから出ています課題解決型企業とかそういったところにも声かけをして実際にそこに参加してもらう。その先にさっきありました例えばさっきの拠点施設であるとか、あるいは拠点施設以外のまちなかのオフィス、受入れのとこに導いていくっていうことで、我々としてはそこはずっと一定の流れかなというふうにちょっと考えておりますので、すぐすぐにはもちろんつながりませんが、そこから逆にどういうふうに展開していくかというのは、我々が一生懸命工夫しながらやっていかないといけないかなというふうには考えているところです。以上です。

◆石田憲太郎分科会長 柳委員。

◆柳 大地分科員 最後になりますけど、今、サイト見てても、やっぱりこれだけ遊びとか、余 暇の場所が充実してんだっていうサイト構成にやっぱり僕は見えるんですよ。それで、やっぱ り企業って絶対それ求めてなくて、福利厚生型のブレジャー型求めてる企業って多分、ほぼほ ぼないと思っていて、やっぱり開発合宿とか、オフサイトミーティングみたいなのを狙ってる と思うんで、それだともう、正直、余暇が何やるとかって、多分ほとんど求められてないと思って、どれだけみんなが短期で集中して取組ができる、会議環境が整っているっていう多分そ

- っちのプッシュのほうが多分企業にとっては響くと思うので、ぜひ企業側の思いとか、需要を もうちょっと狙った対策打ってもらえるとなと思います。以上です。
- ◆石田憲太郎分科会長 これについて関連何かありますか。では、その他質疑がございます方は、 はい、西村委員。
- ◆西村紳一郎分科員 関西万博でインバウンド需要を見込んで、周遊型観光促進事業費ですね。 これ 167 ページ上段と、それから新規事業で国際観光推進事業費ですね。169 ページの上段。 この 169 ページの上段は高速バスの運行支援ということと環境整備ということでありますが、 また、インバウンドで 167 ページですね、タクシーの運行、観光タクシーですね、周遊観光タ クシー、それから運行経費の支援というようなことであるんですが、このインバウンド対策の この狙いですね、この 2 つの事業それぞれお聞かせいただきたい。
- **◆石田憲太郎分科会長** 平井課長。
- ○平井宏和観光・ジオパーク推進課長 観光・ジオパーク推進課平井です。御指摘のとおり4月から万博が開催される、それで我々の1つのもくろみとしてはやはり万博に2,820万人ですか、そのうちの3割、300万人ですかね、ちょっと数字忘れましたけども、外国人観光客も想定されておると。それで我々としてはやっぱりそこの大阪のいわゆる鳥取との窓口、玄関口になっております、先ほど御指摘いただいた高速バス、そこから鳥取市へのいわゆる誘客の1つの材料にこの1,000円の高速バスっていうのをまずは使っていこうと。それで、当然、鳥取駅のほうにそのお客さんが到着されますので、そこから例えばこの3時間の4,000円の周遊タクシーを使って鳥取市内はじめ、主要観光スポットというのを巡っていただくという、いわゆる関西から鳥取市内っていうものを1つつないでいく二次交通という立てつけで、外国人の旅のサポートをしていきたいという考えの下に、予算を計上しているというような状況でございます。
- **◆石田憲太郎分科会長** 西村委員。
- ◆西村紳一郎分科員 国際観光推進事業費で、約3,300人ということでお聞かせいただいたわけですが、また、以前から取り組んでいます周遊タクシーですが、これが3,100台の見込みと。これインバウンドを見込むということになればもっと積極的に予算組みされたらいいと思うんですが、新しい事業が3,300人でということになれば、何かこっちは新規事業で入れて、今までの事業と何か整合してないような気がするんですけど。
- **◆石田憲太郎分科会長** 平井課長。
- ○平井宏和観光・ジオパーク推進課長 観光・ジオパーク推進課平井です。おっしゃられるとおりで、ちょっと予算のこれ、組み方もあって、今回は、御指摘ありましたように、重点支援地方交付金というものを充当した事業として両事業とも計上しております。ですので、例えばですけども、我々としても、これ質疑のほうでもありましたけども、例えば宿泊キャンペーンの事業もそうなんですけども、当然、万博という1つ大きな一大ムーブメントがある年の予算の計上にはなりますんで、例えばそこの利用状況、あるいはその鳥取市への誘客の状況とも踏まえて、これあくまで交付金充当している事業にはなりますけども、例えば交付金充当が可能かどうか、あるいはそういったこともちょっと財政部局とも相談をしながらになりますけども、利用状況に応じながら、ちょっと我々としては予算の計上も当然視野に検討していきたいと、

そういう年であるなというふうな認識ではおります。以上でございます。

- ◆石田憲太郎分科会長 関連して何かありますか。はい、柳委員。
- ◆柳 大地分科員 まず、バスのほうで、169 ページの上段のほうですけど、市内在住の外国人 も大阪から、関西から来るときは乗れるんでしょうか。
- **◆石田憲太郎分科会長** 平井課長。
- **〇平井宏和観光・ジオパーク推進課長** 観光・ジオパーク推進課平井です。基本的にはちょっと 市内在住という区分まではしてないですけど、パスポートで基本的にOCATのほうで、有人 窓口のほうで確認をした上で乗っていただいているという状況です。以上です。
- ◆石田憲太郎分科会長 柳委員。
- ◆柳 大地分科員 ということは、乗れるで合ってますか。分かりました。併せて 167 ページの ほうのタクシーのほうですが、ちょっとまず最初、確認なんですけど、シンプルにこれ台数で 割って、これ 1 台当たり 9,000 円ぐらい補助が出てるってような、まず考え方でいいでしょうか。
- **◆石田憲太郎分科会長** 平井課長。
- **〇平井宏和観光・ジオパーク推進課長** 観光・ジオパーク推進課平井です。そのとおりでございます。通常の料金から今、言いました 4,000 円分を差し引いたところをこの補助金、この事業で支援しているということで間違いないです。合ってます。
- ◆石田憲太郎分科会長 柳委員。
- ◆柳 大地分科員 これ事業自体はすごく効果的というか、利用者にとってはすごくありがたいなって思う一方、施策としてはどうなのかなとちょっと思っているところがあって、今、国の補助金だと思うんですが、これ補助金切れたら多分これ終わっちゃうかなと思っていて、何かこの次につながるっていうところで何か今、この事業で仕込んでいるというか、そういったところの考え方、何かありますでしょうか。
- **◆石田憲太郎分科会長** 平井課長、
- ○平井宏和観光・ジオパーク推進課長 観光・ジオパーク推進課平井です。御指摘のとおり、この事業というのは確かにそういった優遇された部分のセールスポイントに外国人の誘客につなげていこうという部分はありますけども、この事業も今、3時間4,000円とお答えしましたけども、以前はもう少し安い値段でやってきた時代もあったり、もう1つ申し上げますと、周辺地域でもいわゆる我々と似たような取組をしている地域が大山山麓辺りでは、既に6,000円というような値段でやってるところもあります。

この事業は先ほど言いました財源に、国の交付金と県の補助金が2種類入っていますので、 県とも相談をする中では、先ほど議員がおっしゃられた、やっぱり事業の長期的な、持続的な 実施を考えていく中では、そういった例えば4,000円のところの見直しも今後視野に置きなが ら、事業を何とか外国人にも、値段はともかくやっぱり内容の充実を図りながら、継続して提 供できるサービスをしていこうというような考え方を今、県と検討していこうとしているとこ ろです。以上です。

◆石田憲太郎分科会長 柳委員。

- ◆柳 大地分科員 データ収集とかすると次にもつながるかなっていう、補助出す代わりにデータをくれっていうような、例えばバス乗車の方にどこを一番の目的にしているかとか、どこへ行く予定とか、あと、タクシーに関してここの場所の後、次こっちへ行ったとか、この年代の層がここ行ったっていうデータってかなり貴重かなと思うんですけど、そういったデータ収集とか、今、してますでしょうか。
- **◆石田憲太郎分科会長** 平井課長。
- ○平井宏和観光・ジオパーク推進課長 観光・ジオパーク推進課平井です。正直なところ申し上げますと、タクシーのほうはしています。ただ、バスはやはり大阪の有人窓口のほうで対応していくっていうことがなかなか現状困難ということで、我々としてはタクシーでお越しになった皆さんから、例えばこのタクシーも23コース設定をして選んでいただくっていうやり方なんですね。ですんで、例えばですけど、砂丘や白兎や城跡、この辺りを巡るコースっていうのがやっぱり通常人気なんですけども、そういったお客さんのニーズ、あるいは例えばルートに対する御意見とか、そういったところはアンケートで毎回取らせていただいているという状況でございます。以上です。
- ◆石田憲太郎分科会長 柳委員。
- ◆柳 大地分科員 率直に言うと、僕、鳥取東部の結構外国人の知り合いがいて、やっぱりバス 結構使ってるなという印象で、何か正直もったいないなと思っていて、なので、せめて何かそ こからでも、とにかくいろんなところからデータ取れるような、あと、観光実施者の皆さんに 話聞くとやっぱりデータがもっと欲しいっていうのはすごく言われてるので、ぜひちょっとそ んなところ、また、ほかの方法ないかというのをぜひ検討していただければと思います。以上 です。
- ◆石田憲太郎分科会長 そのほかございますか。金田委員。
- ◆金田靖典分科員 では、事業別概要 158 ページの上段、物産振興体制強化事業費ですけども、これは資料4の4ページにも説明書があるんですけども、2点教えてください。購入代行にWorldShoppingBIZというのが⑤の購入代行という、普通あるんですけども、それともう1つ、国内倉庫でWorldShoppingと(株)ジグザグというのが2つあるんですけども、このたびの強化推進事業の中で、新たにこのとっとり市の販売ルートで海外のほうにということで、たしか提案があったように思ったんですけども、それぞれを入れたその利点というんですかね、理由ですね、を1つ教えてください。

それからもう1つは、サイトのリニューアル記念キャンペーンっていうのが5月から7月まで予定してということで予算のほうに計上されているんですけども、新規加入会員登録者注文5,000 円以上で1回限定1,000 円オフのクーポンですよ。それで、内訳が現会員数1万6,000人、使用率50%掛ける1,000円で800万という形になっていますけども、新規会員登録者に注文5,000円以上でって書いてあるのに、現会員数1万6,000人っていうことは、新規会員がこれから1万6,000人増えるっていうことなのかどうなのか、ちょっと教えてください。以上2点です。

◆石田憲太郎分科会長 渡邉次長。

○渡邉大輔次長兼経済雇用・戦略課長 経済雇用・戦略課、渡邉でございます。まず、WorldShoppingBIZっていうところですが、これは海外利用者の皆様の越境ECっていうのを今年度の予算で組み込ませていただいて、新規に海外のできるようなサイトをしっかりと立ち上げていくというようなことでございまして、ここに業務委託ということでサイトを立ち上げさせていただくときに、今までこの事業、海外のショッピングをやっておった事業者様でございまして、そういう意味で、我々、今のサイトは運営を観光協会にしていただいておりまして、観光協会が立ち上げているサイトではなかなか外国のほうに商品を売り上げることができてないものですので、そういった意味で慣れとる事業者様にやっていただくと。

そのための事業費を今年度計上させていただきまして、ここで、こういったところがしっかりと注文を受けていただいて、中継ぎをしていただきながらとっとり市の品物を海外に販路を求めていくということができるということになりますので、そういう意味で、海外の皆様に見ていただけることができるということになると思いますので、この事業をやっていることで海外の販路が拡大できるということになるかなというふうに考えておるところです。

もう1点は、サイトのリニューアルの記念キャンペーンというところでございます。新規登録者に注文5,000円以上で1回1,000円のクーポンということで、現会員の使用率、1万6,000人の使用率50%の1,000円というところでございます。すみません。ちょっとここは担当のほうから答えをさせていただきますので。

◆石田憲太郎分科会長 岩崎補佐。

○岩崎勝紀経済雇用・戦略課課長補佐 経済雇用・戦略課、岩崎です。すみません。補足説明をいたします。まず、MakeShopとか、海外展開のほうですけれども、令和6年9月議会で補正予算として御審議していただき、今、取り組んでおるものですけども、既存のとっとり市システムから脱却して、越境型EC、海外販路拡大のEC機能を持つシステムへの転換を今現在も図っているところです。それで、それを行う際に、その海外展開のスキームのときに利用するサイトですね、その段階で1回日本国内、鳥取から海外に向けて倉庫を、商品を一括して納める倉庫を持っておられるので、そういった意味で記載をしているところです。

それで2点目の御質問の内容ですけれども、リニューアルキャンペーンっていうのは、越境型ECの機能をこの3月で確定させて運用していくんですけども、それに併せて、残念ながらといいますか、システム自体を別システムに移行しますので、既存のシステムの会員さんから別システムに移行する会員さん、要はまた新たに登録し直していただかんといけん。そういう意味でございます。以上です。

◆石田憲太郎分科会長 金田委員。

- ◆金田靖典分科員 システム変更によってリセットがかかるということですね、要はね、登録は ね。分かりました。それでBIZと、それからジグザグの差っていうのは国内倉庫を持っとる かどうかだけの違いなんです。利用上の利便性とか云々とかっていうのは有意性とか何とかっ ていうのがあるわけではないですかね。どうでしょう。
- ◆石田憲太郎分科会長 渡邉次長。
- ○渡邊大輔次長兼経済雇用・戦略課長 経済雇用・戦略課、渡邉でございます。そういったとこ

ろでございます。一旦倉庫に集めることができるというとこでございます。

- ◆石田憲太郎分科会長 岩崎補佐。
- ○岩崎勝紀経済雇用・戦略課課長補佐 経済雇用・戦略課、岩崎です。海外の利用者さんからの 視点ですけれども、海外の利用者さんから見た場合、とっとり市システムをサイト上御覧いた だく、それで、そこで商品発注をかけていただく、その中で、新たなシステムの中ではわざに 海外の人が、例えば航空便なのか、船便なのか、選択していただかないといけないんですけど も、そういった手間と、鳥取から海外に発送する手間ですね、鳥取から海外に発送するのが、 直接事業者さんが個別に発送するのではなくて、一旦どこそこの倉庫に集めていただくという ような、もともとそういうスキームのシステムですので、このジグザグとWorldShop pingでの有意性という意味ではなくて、この越境型ECを利用する場合はこういったスキ ームで活用していくというイメージです。以上になります。
- ◆石田憲太郎分科会長 金田委員。
- ◆金田靖典分科員 何となく分かりました。ありがとうございました。続けていいですか。ほか の、ここはいいですか、皆さん。
- ◆石田憲太郎分科会長 これについて関連ございますか。じゃあ、金田委員。
- ◆金田靖典分科員 じゃあ、すみません。161 ページの下段、労働力確保対策企業支援事業費、これは外国人留学生の日本語学校の費用、教育費の費用を割ったもんですけども、それと 162 ページの上段、これは日本語学校の先生の人件費の一部を面倒見るっていうのなんですけども、同じのが福祉部にもありまして、外国人介護人材定着支援金というのが実はあります。

それでちょっと確認しておきたいのは、僕の認識不足なのかもしれませんけども、今これ鳥 取学園、鳥取城北日本語学校がスカイバードっていう、株式会社スカイバードがあっせんした 外国人を日本語学校に通う場合のシステムとしてそこを援助するという形に覚えているんです。 ただ、たしかベトナムの方がそこに関して留学してくるというふうに思っとったんですけども、 そこは、今ベトナムに限ったものなのか、それとも鳥取学園が開催している鳥取城北日本語学 校そのものに入学する場合にはこの補助制度にのるのかどうか教えてください。

- **◆石田憲太郎分科会長** 福山次長。
- **〇福山博俊次長兼企業立地・支援課長** 企業・立地支援課、福山です。この支援制度、その地元 企業さんに対する支援制度については、ベトナムに限定したものではありません。以上です。
- **◆石田憲太郎分科会長** 金田委員。
- ◆金田靖典分科員 じゃあ、要するに東南アジアに限らなくてもいいわけだ。日本人学校、ここの日本人学校を使った場合には、その後、介護なり何なりの人材に動く場合には対象になるということでいいわけですね。
- **◆石田憲太郎分科会長** 福山次長。
- ○福山博俊次長兼企業立地・支援課長 企業・立地支援課、福山です。お答えします。この具体的には、この支援制度ですけれども、外国人材を雇用したいなという企業さんが、まず申込みをされて、それで現地を誰かマッチングをして、それで内定が出て、それで、その方に係る費用として、事前の研修費であるとか、実際こっちに来て、授業料ですね、日本語学校の授業料、

あるいは人材紹介の手数料、そういったところが補助対象になっておりますので、これはあくまでも雇い入れようとする企業さんに対する支援でして、長寿社会課のほうは、あれは個人、その本人に対する支援になっていますので、ちょっと立てつけがちょっと違っている。以上です。

- **◆石田憲太郎分科会長** 金田委員。
- ◆金田靖典分科員 そうなんです。それぞれ事業がね、行き先が全部違うもんですからね。ただ、 総枠的には、事業全体とすれば1つの外国人に対する支援だなということでの確認だったもの ですからね、以前はベトナムだと思ってたら、どうもベトナム人じゃない方々もおられるなと、 これをちょっと見ると、と思ったものですから。ありがとうございました。
- **◆石田憲太郎分科会長** 福山次長。
- ○福山博俊次長兼企業立地・支援課長 企業・立地支援課、福山です。今の御質問の中で、ベトナム以外の部分ということで、現在6期生、先般卒業式がありましたけども、国籍としてはベトナムは5名、それからミャンマーが20名、ネパールが18名、モンゴル5名、スリランカ4名ということで、特に介護コースができましたので、その関係で国籍が非常に広がったということです。以上です。
- ◆石田憲太郎分科会長 関連して何かございますか。じゃあ、引き続き質疑のある方、金田委員。
- ◆金田靖典分科員 いいですか。ありがとうございました。僕はもう最後ですけど、150 ページ の上段のスマートエネルギータウン構想推進事業費です。これ、もう一般質問や質疑でもいろ いろ出されたもんですから、いよいよ本格的に今年度進んでいくんだろうなと思うんですけど も、その中で1つ、木質バイオマス熱電併給事業可能性調査事業費っていうのがこのたび 960 万組まれています。スマートエネルギータウン構想全体の中には若葉台、それから佐治谷の小 水力等々があって認識しとったんですけども、当然この木質バイオマスもあったんですけども、初めてこの事業費として上がってきたものですから、これをもう少し詳しく御紹介、説明いた だければと思います。
- **◆石田憲太郎分科会長** 大角室長。
- ○大角真一郎スマートエネルギータウン推進室長 スマートエネルギータウン推進室、大角でございます。先ほどの金田委員の御質問に対してちょっと追加資料を出させていただきたいんですが、委員長のちょっと許可をいただきたいんですけども、よろしいでしょうか。
- ◆石田憲太郎分科会長 配ってください。じゃあ、配布お願いします。大角室長。
- ○大角真一郎スマートエネルギータウン推進室長 スマートエネルギータウン推進室、大角でございます。ちょっと説明のできる資料を配布させていただきました。脱酸素先行地域におきましては、木質バイオマスの熱電併給設備を入れるという計画となっております。それで今回、事業可能性調査事業費を上げさせていただいておりますけども、この調査を行うためにちょっと配らせていただいた構想イメージ図でございますが、このようなことを佐治町のほうでできないかということで、それに関連した調査等を行うための業務費を計上させていただいておるといったとこでございます。

どのようなイメージかといいますと、佐治町に地域の森林から原木を調達して、それをチッ

プにいたします。それでそのチップを燃料にしてバイオマス熱電併給設備の、これガス化で発電ができるボイラーでございますけども、これを導入いたしまして、熱と電気をつくるバイオマスセンターを導入します。それでその熱と電気を活用して、佐治町に葉物野菜である植物工場でありますとか、陸上養殖、またはしいたけ栽培など農水産物を生産するゼロカーボンファームの農業施設を構築して、そこでできた農水産物を高付加価値の高い産品といたしまして市内外へ、市場へ出すといったスキームができないかというふうに考えておるといったとこでございます。

それで、これまだちょっと検討していくんですけども、バイオマスセンターについては、市のほうで整備して、農業施設整備運営とかにつきましては、民間企業のほうで整備をいただいて運営をしていただくといったようなスキーム、想定をしておるといったところでございます。以上でございます。

- **◆石田憲太郎分科会長** 金田委員。
- ◆金田靖典分科員 ありがとうございました。キャビアが食べれるかどうかよく分かりませんけども、何となくイメージとしては分かりました。ただ、バイオマスは御存じのとおり、米子のほうで、かなり大きな大規模なものをつくったら、不完全燃焼なりで、中で材木が、材料が燃えたりして大事故になってというようなことだったもんですから、地元の間伐材を多分想定されて、それを基にしてのバイオマス熱だろうなと思って、このたび上がってきたんだろうなと思って資料いただきました。こういう形で地元の原料を使ってそれをまた新たな再生可能エネルギーに切替えていくっていうのは、非常に大事なことだなと思っていますので。分かりました。ありがとございました、どうも。
- ◆石田憲太郎分科会長 そのほかございますか。柳委員。
- ◆柳大地分科員 時間押してる中、すみません。最後です。申し訳ないです。157 ページ下段、 物産振興体制強化事業費のふるさと物産館について教えてください。まず、1点目がふるさと 物産館の売上げと、あと、この補助金抜いたこの純利益っていうんですかね、を教えてください。
- **◆石田憲太郎分科会長** 渡邉次長。
- ○渡邉大輔次長兼経済・雇用戦略課長 遅くなり申し訳ございませんでした。経済・雇用戦略課、 渡邉でございます。令和6年度はまだ決算等できていませんので、少し令和5年度でお話をさせていただきたいと思いますが、売上げとしましては、令和5年度ですが、ふるさと物産館1,984万6,309円、それから出店の販売というのもございまして、252万2,525円というような形で販売をさせていただいております。そのほかにも売り掛けの販売だとかというものもございまして、売上げでいいますと、3,491万9,781円というのが売上げとなります。それで、令和5年度に関しましては、我々のほうの補助金というのが879万円させていただいておりました。これは、インターネットショップとっとり市は抜きでございます。以上でございます。
- ◆石田憲太郎分科会長 柳委員。
- **◆柳 大地分科員** 人件費や賃料ですかね、建物賃料も含めた利益のほうお願いします。
- ◆石田憲太郎分科会長 渡邉次長。

- ○渡邉大輔次長兼経済・雇用戦略課長 失礼しました。経済・雇用戦略課、渡邉でございます。 人件費につきましては、職員が4名ということで879万円程度でございますし、家賃につきま しては、一部観光サイドとの、物販だけではなくての共用もありますけれども、家賃使用料と しましては、基本的には160万円というのが担当の金額になります。そのほかにもありますけ れども、物産関係での家賃にはこういった金額になりまして、最終的には計上でいきますと、 マイナスとなっております。すみません。
- ◆石田憲太郎分科会長 時間かかりますか。渡邉次長。
- **○渡邉大輔次長兼経済・雇用戦略課長** 失礼しました。もう一度ちょっとしっかりと確認して数値をお話しさせていただきます。
- ◆石田憲太郎分科会長 はい、では、それは後でということで、柳委員。
- ◆柳大地分科員 行政がやるこういうところの採算性の考え方を聞きたいんですけど、とにかく やっぱり利益を出してきちんと回していくっていうのか、それともどうしてもまちとしてこれ を置かなきゃいけないから売れないものであっても置いていくっていうような考え方もあると 思うんですけど、ここのふるさと物産館に関するこの採算性の考え方を教えてください。
- ◆石田憲太郎分科会長 渡邉次長。
- ○渡邉大輔次長兼経済・雇用戦略課長 経済・雇用戦略課渡邉でございます。ふるさと物産館の 採算性に対する考え方ということでございます。やはり鳥取の品物をPRしていく、特に観光 客に対してもPRしていくだとかということがございまして、やっぱり小さな事業者さんも含 めまして、観光協会に登録していただいた皆様の品物をPRするっていうことは大切であると いうこと、ただ、観光協会とすると、そこの中で、やはり物産販売ということになりますので、 収益事業でもございます。ですので、プラス事業にしていくっていうのはやはり目的の1つで はございますが、PRという部分、それからこれを例えばこの物産協会、物産の販売の中で県 外でのPRだとか、そういったこともやっておりますので、そういった部分でいきますと、赤 字になるところも、今まではちょっと赤字になっておりますけれども、そういったことも起こ っておるということでございますが、なかなか県外だとかにPRできない事業者様の品物であ るとか、小さな事業者様の品物を店頭に置かせていただきながらPRもしていくということも 考えると、売上だけに捉まえていくのはいけないのではないかというような考え方も持ってお ります。そういった意味で、赤字の幅がどれぐらいがいいのかというところでもないんですけ れども、PRという部分を含めての事業としていますので、そういった部分を我々の支援と併 せて観光協会さんの売上げの中で何とか頑張っていくっていう考えでおります。
- ◆石田憲太郎分科会長 柳委員。
- ◆柳 大地分科員 砂丘のところにああいうのを置くのと、あそこのふるさと物産館のあれと僕は違うと思っていて、砂丘の場合、お土産屋さん並んでるんで、なかなかそこに置いてもらえない商品、新しい商品とか、小さいお店の商品を置いて採算性取れなくても置くっていうのは分かるんですけど、やっぱり今のふるさと物産館の場所、もう一等地だと思うんですよね、一等地でそんなに周りにお土産屋さんもない、駅まで行かないとってなると、あそこがものすごい集客を集めるぐらい、逆にあそこでやっぱりプラス出せないと、やっぱり厳しいなと僕は思

っていて、それも税金でやっているということ考えると。

何で今回この質問出したかというと、外がすごくきれいになったと思うんですけど、僕、やっぱりここ何か月かちょっとあそこちょこあっていて、やっぱり中見ると、とてもやっぱり物を買いたくなるような今、陳列になってないし、ポップもそうだし、レイアウトもそうだし、僕は内装費かけてもいいぐらい、やっぱりきちんとやっぱりお土産屋さんとか、物産館として特に観光客の人たちがふらっと入ったときに、やっぱり買いたくなるような意識ってすごく大切だと、そのためにやっぱり何を意識するかって、やっぱり僕は採算性意識するべきだと思っていて、品物を選ぶっていうよりか、売れる努力をもっとするっていうような。それで、そう考えるとそもそもあそこの立地で開店時間7時まででいいのかって、どっちかというと、夜にはやっぱり人の流れがあるというところは7時まででいいのかっていうところもそうですし、あとは、やっぱり一番は陳列が、ものすごく正直、何か現場でやられている方に申し訳ないですけど、すごくよくないっていうのが市民の方からもかなり上がっているので、ぜひやっぱり採算性を基にしてきちんと売れるようにやっぱり努力していくっていうところをぜひちょっとまた、検討していただければなと思います。以上です。

◆石田憲太郎分科会長 渡邉次長。

○渡邉大輔次長兼経済・雇用戦略課長 経済・雇用戦略課、渡邉でございます。以前、観光協会が砂の美術館を受託しておったときには、あちらの部分での売上げというのが相当上がっていまして、採算性が黒字になっておったというような時代もございました。ただ、今の場所に移ってからはなかなか、やはり観光客の方がいらっしゃる場所ではなく、日常の買い物をする場所の中でのああいったものですから、やっぱり売上げの部分も少し少なくなっているのかなと。ただ、周辺ホテルはたくさん増えてきておる中で、そういった方が買い物をされる、鳥取のお土産を買われるということもやっぱり必要でありますし、そういった方にもしっかりとPRをしていくというようなことで、あそこの場所でふるさと物産館を開いておると、今の現状はそういうところでございます。

おっしゃられましたように、陳列の部分でありますとか、夜の開店の部分、これは少し難しい課題でもあるのかなとは思っておりますけれども、また、協会のほうとも協議をしていきたいなと思います。

- ◆石田憲太郎分科会長 そのほかございますか。水口委員。
- ◆水口 誠分科員 最後にちょっとすみません。概要書の 163 ページの上段ですけども、事業継承推進事業費です。予算なんですけども、予算が昨年よりも倍増になっておることもありますし、要求額も 511 万 2,000 円とあるんですけど、この予算の倍増の理由とかっていうのは分かりますか。
- **◆石田憲太郎分科会長** 福山次長。
- ○福山博俊次長兼企業立地・支援課長 お待たせしました。企業立地・支援課福山です。予算が 増額をした部分というのは、この事業自体2つありまして、1つは第三者承継の場合にその専 門のあっせん、仲介、業者さんに対する成功報酬の部分と、あと、事業承継に関わる制度融資 を使ったときへの利子補給、この2つになっていますが、そのうちの成功報酬のほうが今、想

定している者が件数が増えた関係で増額になっているところです。以上です。

- **◆石田憲太郎分科会長** 水口委員。
- ◆水口 誠分科員 事業の実績見ますと、3の個別相談会開催というのがこの3年間ないようなんですけども、この開催についてはどう考えておられますか。
- **◆石田憲太郎分科会長** 福山次長。
- ○福山博俊次長兼企業立地・支援課長 企業・立地支援課、福山です。この第三者承継への関係で課題として一番あったのはやっぱり掘り起こしですね、実際にその課題抱えておられる事業者さん、掘り起こしをどういうふうに掘り起こしていくか、実際問題、多分そういうので悩んでおられる方ってあんまりそういうマイナスな話題を外にあんまり出したくないというのもあって、なかなか掘り起こしが難しいというようなこともあったんですが、やはりそこをもう1回ちょっとやっていこうということで、このたび、今、事業承継の引継ぎセンターというのがあります。あと、商工会さん、会議所さんと連携して、特にこれまで少し弱かった新市域でのこういった相談会をやっていこうという話になっております。というところで、当然旧市をやらないというわけではないんですが、新たにこの新市域をやっていこうということで、今回、個別相談会開催というのが予算書に上がってきているということであります。以上です。
- ◆石田憲太郎分科会長 そのほかございますか。それでは以上で質疑を終結をいたします。多少時間延びておりますけども、大変申し訳ございません。ちょっと引き続きちょっと延びますけども、続けさせていただきたいというふうに思いますので、よろしくお願い申し上げます。

議案第 13 号令和 7 年度鳥取市公設地方卸売市場事業費特別会計予算について(質疑)

◆石田憲太郎分科会長 それでは次に議案第 13 号令和 7 年度鳥取市公設地方卸売市場事業費特別会計予算を議題とします。質疑を行います。質疑のある方は挙手お願いします。ございませんか。では、以上で質疑を終結します。

議案第 19 号令和7年度鳥取市温泉事業費特別会計予算について (質疑)

- ◆石田憲太郎分科会長 それでは次に議案第 19 号令和 7 年度鳥取市温泉事業費特別会計予算を 議題とします。質疑を行います。質疑のある方は挙手願いします。ございませんか。金田委員。
- ◆金田靖典分科員 これは値上げを含めた金額が反映しているんですかね、教えてください。
- **◆石田憲太郎分科会長** 平井課長。
- **〇平井宏和観光・ジオパーク推進課長** 値上げというのは、先ほどのあれですか、温泉館のこと 言っておられるんでしょうか。これは温泉条例である程度定められた受益者がいわゆる納入し ていただくものなので、また別だというふう御理解いただけたらと思います。
- **◆石田憲太郎分科会長** そのほかございますか。それでは以上で質疑を終了いたします。

議案第20号令和7年度鳥取市観光施設運営事業費特別会計予算について(質疑)

◆石田憲太郎分科会長 では、次に議案第20号令和7年度鳥取市観光施設運営事業費特別会計予 算を議題とします。質疑を行います。質疑のある方は挙手願います。ございませんか。では、 ないようでありますので、以上で質疑を終結いたします。それでは執行部の皆様は御退出いた だいて結構です。

分科会長報告の取りまとめ

- ◆石田憲太郎分科会長 それでは分科会長報告の取りまとめを行いたいと思います。まず、経済 観光部所管の部分で皆様から出された質疑、意見について事務局のほうから報告していただけ たらと思います。橋本さん。
- ○橋本圭司議事係主任 それでは御報告いたします。まず、まちなかビジネス・コミュニティ拠点整備事業費に対する質疑が柳委員さんからございまして、あとは金田委員からもございました。その中では、ほかの補助事業との連携に関する御意見もあったところです。あと、中山副委員長からもございました。次に観光ボランティア活性化事業費に関する質疑ございました。その後が農商工連携マッチング事業費に関する質疑、その後、関係人口推進事業費に関する質疑、ワーケーションに関する部分の質疑がございました。その後が関西万博のインバウンドの関係で、周遊型観光促進事業費及び国際観光推進事業費に関する質疑ございました。あとは、物産振興体制強化事業費、とっとり市に関するものですけども、この質疑がございました。あと、労働力確保対策企業支援事業費、日本学校に関する部分の質疑、その後にスマートエネルギータウン構想推進事業費、木質バイオマスに関する部分の質疑ございました。それであと、物産振興体制事業費、ふるさと物産館に対する部分の質疑がございました。あとは、最後に事業承継推進事業費の部分の質疑ございました。以上でございます。
- ◆石田憲太郎分科会長 今、出た意見について述べてもらいました。私が感じた部分で言いますと、162 ページのまちなかビジネスの中では、コンセプトが弱いんじゃないかとか、ビジョンのこととかいうことの意見が出たかなと思っております。あと、166 観光ボランティアのとこでは、例えばマンネリ化になっていないかとか、ガイドを増やす努力が必要なんじゃないかというような意見がございました。163 ページの関係人口のところでは、ワンストップ窓口、リンクを飛ばすとその先にワーケーション情報がないというようなこともあって、その辺りはしっかりと反映させていくべきじゃないかっていうような意見があったかなと思います。

あと、167 国際観光のとこで言ったらその先を見込んだ仕組みというのを考えとるんかとか、 データ収集をしっかりとやって戦略に生かしていくべきじゃないかっていうこと、あと、最後 157 の物産観光で言えば、採算の考え方とか、収益を出す施設にする必要があるんじゃないか とかというような意見があったかなというふうに思っております。

1つですね、経済観光としての分科会長報告で、どれか皆さんのほうから選定してもらえたらなと思うですけけど、長坂委員。

- ◆長坂則翁分科員 やっぱり経済観光部の今回の目玉っていうのは、まちなかビジネス・コミュニティ拠点整備事業費だと思う。新規事業でもあるし、だけ、これを経済観光部の分科会長報告に入れたがいいじゃないかと私は思います。以上です。
- ◆石田憲太郎分科会長 今、長坂委員のほうから御意見がありました。まちなかビジネスでというようなことがありました。ほか、意見ありますかね。よろしいですか。金田委員。

- ◆金田靖典分科員 そのとおりです。いろいろ事業が絡んでいますし、これは単独ではない、い るいろな総事業が絡んでますから、ぜひこれを意見として、と思います。
- ◆石田憲太郎分科会長 よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

◆石田憲太郎分科会長 じゃあ、162 ページのまちなかビジネスのこの事業費について出ました 意見に、これをちょっとまとめて事務局のほうと正副委員長のほうでまとめてさせていただこ うと思いますんでよろしくお願いします。では、そのように決定をさせていただきます。それ では文教経済分科会を休憩をし、午後からは、また文教経済委員会で開会しようと思いますん で、よろしくお願いします。開会は1時半から開会しますので、はい、以上です。

文教経済委員会に切替え 午後 12 時 28 分 休憩 予算審査特別委員会文教経済分科会に切替え 午後 2 時 29 分 再開

【農林水産部・農業委員会】

◆石田憲太郎分科会長 それでは予算審査特別委員会文教経済分科会を再開いたします。

議案第 11 号令和7年度鳥取市一般会計予算について(質疑)

- ◆石田憲太郎分科会長 議案第 11 号令和 7 年度鳥取市一般会計予算のうち、所管に属する部分を 議題とします。質疑を行います。質疑のある方は挙手をお願いします。柳委員。
- ◆柳 大地分科員 事業別概要書 180 ページ、鳥取市戦略的園芸品目イチゴとっておき総合対策 事業費について教えてください。高級イチゴ、今、市場どんどん拡大して単価も高いっていう の、非常にいいものだと思いますが、一方、ほぼ全県ブランドイチゴつくっているぐらい結構 激しい争いになってるかなと思うんですけど、それで、これに関して県と協調して多分、進め てきてると思うんですけど、県の、どちらかというと、県が主導を持ちながらっていうところ だと思うんですけど、成長戦略において今の段階での一番の課題というのはどういうところに なりますでしょうか。
- **◆石田憲太郎分科会長** 増田課長。
- ○増田泰則農政企画課長 農政企画課、増田でございます。イチゴとっておき自体が鳥取県のオリジナル品種というところでございます。この事業の説明に当たって基本的には、本当は県の事業って新しいやつは特に3セットといって、要は3年間の事業だったんですけども、今のところ毎年延長されておるというようなところで、事業が進められてるところでございます。事業の課題みたいなところという話にはなろうかと思うんですけども、そちらのほうにつきましては比較的予算化もさせていただきやすい、要は県が3分の1あって、市が6分の1ということで、2分の1という補助事業になろうかと思うんですけども、比較的農家さんが取り組まれやすい事業、要は、特化してあるので、取り組みやすい事業ということでございます。

課題のほうにつきましては、ハウスでどっちかというと新しく施設栽培を始められるという 場合になりますと、ハウスがまず作られて、栽培方法にもよったりはするんですけど、公設施 設っていって比較的事業費が膨らみやすい栽培品目になりますので、当然補助金もあるんですけども、自己負担の部分というところで、お金を準備しなければいけないということがあって、いきなり大規模にっていうのは、なかなか少ないというところが課題なのかなと考えているところでございます。以上でございます。

- ◆石田憲太郎分科会長 柳委員。
- ◆柳 大地分科員 今の話で言うと、それがかかるということは、まだ生産量が追いつかないとか、あと、一番は結構認知度かなと思うので、県外での認知度がやっぱりまだまだ全然低いというところもあると思うんですけど、これ県のメニューのほう、令和6年、7年のところは、僕が確認できなかったんであれなんですけど、前のほうのメニュー見ると商談会の販促とか、それこそハウスを建てるっていうようなメニューもあったかなと思うんですけど、令和6年、7年が続いてるか分からないんですけど、今回、内容見ると、光合成促進機の導入を支援するっていうふうに書いてあるんですけど、これはここに書いてないだけで、ほかのメニューもあるのか、それとも、もうこの光合成促進機だけに絞っているのか。絞っているのであればその理由も教えてください。
- **◆石田憲太郎分科会長** 増田課長。
- ○増田泰則農政企画課長 農政企画課、増田でございます。取組のメニューでございますけども、 予算化させていただいておりますのは光合成促進機ということで、ハウスは今お持ちで、要は 栽培を炭酸ガスだったかな、ということで栽培を促進するような取組をされたいということで、 中の機械のほうをこのたびは導入されるというところでございますし、取組のメニューといた しましては、先ほど申し上げたハウスという、だから、施設とか、このたびので言ったら機械 とかっていうのも対象になりますし、販促のメニューもあります。以上でございます。
- **◆石田憲太郎分科会長** 柳委員。
- ◆柳 大地分科員 ここに書いてないだけで、事業所のほうには、それは伝わっているというような理解でいいでしょうか。
- **◆石田憲太郎分科会長** 増田課長。
- **〇増田泰則農政企画課長** 農政企画課、増田でございます。相談があれば当然メニューとしてお示しを、補助の要綱でありますとかってことでお話をさせていただくので、当然農家さんにも説明をさせていただきます。以上でございます。
- ◆石田憲太郎分科会長 柳委員。
- ◆柳 大地分科員 ぜひ、最初の、多分とにかく県と一緒にやっていくメニューだと思うので、 今この成長戦略の中のどの段階なのかっていうので、明らかに生産量追いついてない中、販促 あまり進めてもしょうがないと思いますし、ぜひ、そうやって県と市で協調して共通理解の下、 それ、ぜひ生産者のほうにもぜひ共有していくことが次につながるかなと思うので、よろしく お願いいたします。続けてもう1問お願いいたします。184ページ。
- ◆石田憲太郎分科会長 ちょっと待って。この件で何かありますか、関連して質問は。いいです かね。はい。じゃあ、柳委員。
- ◆柳 大地分科員 はい。失礼しました。184 ページ鳥取地どりのブランド生産拡大事業補助金

について教えてください。牛のほうはかなり県が力入れてるかな、鳥取和牛っていうところで、 と思うんですけど、今回この鳥取地どりっていうところに関しては、一般財源で市単独になっ てると思うんですけど、鳥を促進するっていうのは、県の予算とか、そういう戦略みたいなの は県のほうはないんでしょうか。

- **◆石田憲太郎分科会長** 増田課長。
- ○増田泰則農政企画課長 農政企画課、増田でございます。県の事業でございますけども、実際には、県の事業としても地鳥の分がありまして、それにつきましては、市が間に入る間接事業ということで、このたびの分については単市のみの地どりピョの事業でございますけども、県事業は別でございます。以上でございます。
- **◆石田憲太郎分科会長** 柳委員。
- **◆柳 大地分科員** これ、あえて県と別で市単独でやっている理由を教えてください。
- **◆石田憲太郎分科会長** 増田課長。
- ○増田泰則農政企画課長 農政企画課、増田でございます。県事業につきましては、このたび施設整備の事業があるんですけども、こちらのほうは単市でございますけども、県の事業に乗ろうと思うと規模がもう少し大きくないといけんというような、要件に満たないというような、単市によって支援させていただいておるところでございます。以上でございます。
- ◆石田憲太郎分科会長 柳委員。
- ◆柳 大地分科員 これ事前の説明で令和5年、6年黒字のほうに進んでるっていうことでいい 方向できてるのかなと思うんですけど、これ恐らく補助をしながらどんどん広げていきたいっ ていう思いがあると思うんですけど、成長していく中で、今の段階での課題、それこそ生産量 が追いついてないとか、生産者がそもそも少ないとか、そういったころの、今の課題感を教え てください。
- ◆石田憲太郎分科会長 増田課長。
- ○増田泰則農政企画課長 農政企画課、増田でございます。課題というかという話になるかもしれません。課題の1つとしては、県の地どりピヨの雛鳥ですかね、雛鳥の生産数が、今がちょうど上限ぐらいというところで今のところ聞いています。それであと、鳥取市のこちらのほう鹿野のほうのお話になるんですけども、鹿野の施設でいきますと今がちょうど上限ぐらいの、整備はいろいろ鶏舎とかを新しく整備したりとかして、どちらかというと拡大してきたほうでございまして、それをさらに広げようと思うと今度は施設をまた追加して大きくしていかなければいけないというようなことが課題になろうかと思います。以上でございます。
- ◆石田憲太郎分科会長 柳委員。
- ◆柳 大地分科員 そこら辺について市としてどんどん拡大していくというところなのか、どちらかというと、生産者のペースに合わせて伸ばしていくっていうようなのか、そこだけどのような感じでしょうか。
- **◆石田憲太郎分科会長** 増田課長。
- **〇増田泰則農政企画課長** 農政企画課、増田でございます。事業者さんとは、当然連絡は密にしておりますし、事業もありますので、よく話もさせていただいておるところでございますけれ

ども、どちらかというと頑張って大きくしていらっしゃるというところですので、今現在すぐ 大きくされるということは、想定はできないんですけども、希望されるようであれば、当然ま た支援を継続していくよということになろうかと考えます。以上でございます。

- **◆石田憲太郎分科会長** 柳委員。
- ◆柳 大地分科員 あと、今どちらかというと、生産、加工のほうの支援だと思うんですけど、 これ、今、流通だったり、消費っていうところに関しては支援がなくても、もう十分さばけて るっていうような感じか、もしくは、ここに載ってないだけで、流通、消費のところも何か支 援してるところはありますでしょうか。
- **◆石田憲太郎分科会長** 増田課長。
- ○増田泰則農政企画課長 農政企画課、増田でございます。この事業ではないんですけども、販路拡大とかっていって農産物であるとか、畜産物とかを例えば大阪とか、東京とかに持っていって売ったりしてるところがあるんですけども、そういったところに加工品とかが持っていけるようであれば、当然そんなんで販売促進も支援しておりますし、昨年なんかでいきますと、新商品化を鶏でいったら、いろんな味付けをして、パウチというか、包装で商品化をいたしまして、それでお披露目をするというような事業も昨年度というか、令和6年についてはやってるところでございます。以上でございます。
- ◆石田憲太郎分科会長 柳委員。
- ◆柳 大地分科員 ちょっと今、ここ質問上げさせてもらってるのは、僕、結構、鳥取のこの鳥って僕は観光分野においてもものすごい伸びてくるんじゃないかと思っていまして、というのも和牛めちゃめちゃおいしいんですけど、和牛ってやっぱりライバル多くて、あと、既に認知度が延び切ってるのもあって、さっきのイチゴと同じようなところで、結構戦うの難しいなと思っていて、それで一方、鳥のこの何かいろんな認知度ランキングとか、イメージランキング見ると、必ず大山どりが既に入ってるって、これめちゃめちゃアドバンテージだなと思って、それで、ただ、大山どりが鳥取っていうイメージがなかなか他県の人としてはつながってないので、何かむしろ大山どりと鳥取つなげながら、さらに鳥取でこのピヨだったり、ほかのブランドもあるっていうのは、ストーリーとしては非常にいいなっていう。あと、すごく安直なんですけど、鳥取にいて鳥を食べるっていうのがすごくシンプルで分かりやすくてほかの県の人にとって。

それでカニがあると思うんですけど、カニはやっぱり旅で来ても高級過ぎてやっぱり食べてないんですよね、実際。なので、1,000円、2,000円台で食えるって、しかも鳥取らしいっていうところでいくと、この鳥の生産拡大って、僕は正直和牛よりもよっぽど現実路線だと思っていて、なので、僕はもっと積極的にどんどんどんどん支援してもいいかなと思っていまして。それで、今後のちょっと伸ばしていく見込み、今どっちかというと生産者のほうに合わせてっていうような感じだったと思うんですけど、市としてこの鶏っていうのをどういうふうに見てるのかっていう辺り最後教えていただけたらと思います。

◆石田憲太郎分科会長 増田課長。

〇増田泰則農政企画課長 農政企画課、増田でございます。地鶏なので地どりピヨ、地鶏でござ

います。それで、先ほど申し上げたように雛の確保ができるかっていうのが要は県のほうの体制が確保できるかどうかっていうのも当然あると思っておりますし、消費の意味合いでいきますと、今現在、例えば市内のラーメン屋さんとかにも卸していらっしゃいますし、居酒屋さんとかでも当然材料で地鶏として取り扱っていただいてるところもあります。それで、ものがダブついてるというイメージは、今のところうちとしては思っておりませんけども、当然、販売促進も今後も努めてまいりたいと思いますし、生産体制を拡大される意向があるようであれば当然支援してまいりたいと考えておるところでございます。以上でございます。

- ◆石田憲太郎分科会長 柳委員。
- ◆柳 大地分科員 最後なんですけど、食事がおいしいランキングみたいなのがやっぱり結構あって、特に去年で言えば、2024 年 46 位なんですよね、鳥取。すごく僕はこれ県内と県外ですごいギャップがあると思っていて、やっぱり鳥取県の人たちはみんなやっぱり食の場所だって、食パラダイスみたいなの鳥取県も出していますけど、やっぱり僕もちょっと外から来た組なんですけど、正直やっぱり外から見ているとそのイメージがなくて、それで、何でかっていうと、やっぱり加工がしにくい食品が多いな、カニだとか、らっきょうとかやっぱりそのまま食べるしかないっていうので。それでやっぱり各飲食店がやっぱり加工できるものでお手頃な食材っていうところの開発が結構ポイントかなと思っていると、僕はやっぱり鶏って結構いいところだなと思いますので、ぜひ、また何か観光だったり、消費っていう辺りも農政企画のほうからつくり上げていくようなイメージ、また持っていただけたらと思います。
- ◆石田憲太郎分科会長 そのほかございますか。金田委員。
- ◆金田靖典分科員 これ西村さんが質疑されたんかな。1万2,000羽って書いているんですけど、 メモにね。今の生産量が大体1万2,000羽、前は目標が1万2,000羽だったような気がしたん ですけども、今もう大体ここに到達してるんですかね。
- ◆石田憲太郎分科会長 増田課長。
- ○増田泰則農政企画課長 農政企画課、増田でございます。鳥取市内で関わるところでいきますと、2件事業者さんがいらっしゃっていて、それで、鹿野のほうについては、それこそ質疑の際にもお話ししたとおり、1万2,000羽で、1万2,000羽ぐらいが今ある施設の規模でいくとちょうどいいぐらい。それで、先ほども申し上げましたけども、雛が当然、それがもうちょっとぐらいはできるとは聞いていますけども、なかなか全部が100%商品になるっていうこともないので、今の規模ぐらいが適正なのかなと。もう1個の事業所さんにつきましては500羽ぐらいということで伺っておるところでございます。以上でございます。
- ◆石田憲太郎分科会長 金田委員。
- ◆金田靖典分科員 もう1つ。昨年ね、予算は2,300万で今年550万ということなんだけども、 この300万増えた中身教えてください。
- ◆石田憲太郎分科会長 増田課長。
- **〇増田泰則農政企画課長** 農政企画課、増田でございます。施設でございまして、それで、今年 度でいきますと管理棟の整備、事務所ですね、事務所の整備、あとは井戸の移動を整備される のと、水ためるところを造られる、あとは一昨年に堆肥舎の整備ということで予算化させてい

ただいて、事業としては繰越しで今年整備するところでございますけども、それの堆肥を切り返すローダーということで、機械のほうが全部で300万ぐらいの補助金ですから1,000万ぐらいの事業がなされたというふうに考えております。以上です。

- **◆石田憲太郎分科会長** 金田委員。
- ◆金田靖典分科員 ほんな、いずれもそれは鹿野のことですね。
- **◆石田憲太郎分科会長** 増田課長。
- **〇増田泰則農政企画課長** 鹿野のほうのお話でございます。以上でございます。
- **◆石田憲太郎分科会長** 金田委員。
- ◆金田靖典分科員 なら、もう1つ、株式会社鹿野地鶏を立ち上げたときに、大江ノ郷とそはな ふささんとふるさと鹿野という3社が同時に立ち上がったように思ってたんですけども、はな ふささんって、まだこれ、一緒に共同経営で残っとられるんですかね。
- **◆石田憲太郎分科会長** 増田課長。
- **〇増田泰則農政企画課長** 農政企画課、増田でございます。今でも入っていただいております。 以上でございます。
- ◆金田靖典分科員 ありがとうございました。
- ◆石田憲太郎分科会長 これに関連してございますか、質疑は。それでは、ほか質疑ございますでしょうか。長坂委員。
- ◆長坂則翁委員 山田課長、教えてください。事業別概要の192ページの下段、豊かな森づくり 推進事業費、これ以前は竹林整備事業費だったかな、何か事業名の変更になって、今回こうい った、今回というか、現在はこういった事業名になっておるんですが、現在までの竹林整備の 整備実績、そして、まだ竹林整備が必要な面積はどれぐらいですか。教えてください。
- **◆石田憲太郎分科会長** 山田課長。
- 〇山田泰弘林務水産課長 林務水産課、山田です。すみません。前回までの事業実績、令和4年からしかちょっと手持ちにないんですけど、大体令和4年が4.8、令和5年が3.9、令和6年が大体3.6やっています。それで、整備計画とお尋ねをされていますけども、この竹林整備は整備計画がもともとあるものではありませんので、管理してない、できてないその竹林をもう一度皆さんが整備して、その後、また5年間管理していくというような計画を基に始めていただける事業でして、鳥取市のほうで、じゃあ、幾ら来年度整備しなさいという、そういう計画は持っておりません。以上です。
- **◆石田憲太郎分科会長** 長坂委員。
- ◆長坂則翁委員 財源内訳を見ると、国の、鳥取県の豊かな森づくり協働税が財源になっとるようだけども、その他も入っとるんだけども、これは坂本部長、一般財源というのは基本的に入れることができない事業ですか。
- **◆石田憲太郎分科会長** 坂本部長。
- **〇坂本武夫農林水産部長** この事業は森林環境譲与税の基金を使っておりまして、無理やり単市 を入れれば単市はできると思うんですけども、森林譲与税があるので、それを有効に活用させ ていただいているところでございます。

- **◆石田憲太郎分科会長** 長坂委員。
- ◆長坂則翁委員 それで、まだどれぐらい残っとると今、言われたかいね。それで、あと、まだ かなり残っておるんでしょう、実際は。
- **◆石田憲太郎分科会長** 山田課長。
- **〇山田泰弘林務水産課長** すみません。先ほどちょっと御説明させていただきました。竹林の面積はかなりあるんですけど、じゃあ、その整備する面積がどんだけ残っとるかというのはそもそも計画がございませんので、じゃあ、幾ら残っとるということはお答えはちょっとできません。以上です。
- **◆石田憲太郎分科会長** 長坂委員。
- ◆長坂則翁委員 いや、幾ら残っておるか分らんって、でも、毎年事業を実施しておられるということはそれなりの面積はまだ残っておるんじゃないですかと私は言いたいんですよ。それで、残っておるとすれば、別に坂本部長の先ほどの答弁じゃないけれども、一般財源入れることについてもやぶさかじゃないと言われれば、もっと竹林整備の事業促進を図っていかなきゃいけんじゃないんですかと、そこが言いたいんですよ。どうですか。
- ◆石田憲太郎分科会長 山田課長。
- 〇山田泰弘林務水産課長 林務水産課、山田です。この整備自体が、そもそも所有者によって適正な管理がなされず、順次放置されてる竹林、それで、なおかつその所有者とその管理されたり、施業される方が協定を結んだ後に、また5年間はその土地を管理しろよという協定を結んだ上での補助メニューというか、支援する事業でして、まず、その管理される人と所有者の方がどんだけ不明な人がおるのかというか、把握していないもんで、毎年事業を起こすときにはその事業主体者さんとか、そういう整備されているところの人から大体これぐらいあるんだよというところを要望受けて事業化をしております。以上です。
- ◆石田憲太郎分科会長 そのほかございますか。水口委員。
- ◆水口 誠分科員 事業別概要 187 の上段なんですけども、減容化施設管理運営費についてですけども、この減容化処理施設 2 基稼働、人件費、需要費等とあるんですけども、内訳をもう少し詳しくお聞かせいただけますか。
- **◆石田憲太郎分科会長** 増田課長。
- ○増田泰則農政企画課長 農政企画課、増田でございます。内訳ということでございます。減容化施設につきましては、施設のほうの管理運営ということで職員、会計年度任用職員さんでございますけども、こちらのほうが3名という体制にさせていただいております。それで、報酬でありますとか、職員手当等ということなのかと思いますけども、そちらが、800 万弱ぐらいが人件費の部分というところでございます。はい。それで、あと、施設を維持するのに委託、例えば合併浄化槽の点検清掃とか、あとは大きいところでいきますと減容化施設の機械の中にバクテリアのようなもので溶かしていくという、イノシシとかシカを溶かしていくというようなイメージのものになるんですけども、そちらに木材とかのチップが入ったりとか、あとは、その菌とかを入れるような作業ということになろうかと思いますけど、そういったところの全部で大体400 万ぐらいというところが委託料ということで発生しておりますし、このたびの事

業費の増えたところというところで申し上げますと、高圧変電設備が、改修が必要になっておりまして、そちらのほうが300万ぐらいというようなところで大きな金額といたしましてはそれぐらいで、あと、電気代が500万ぐらいというところでございます。以上でございます。

- **◆石田憲太郎分科会長** 水口委員。
- ◆水口 誠分科員 内訳についてはお聞きしました。その下の1日当たりの処理能力ということで、約240キロ、目安ですよね、この括弧のイノシシ、シカ約10頭の合計ということです、そう思っておりますけども、この240キロを持ってこられた際に、超えた場合の対応というのはどうされておりますか。
- ◆石田憲太郎分科会長 増田課長。
- ○増田泰則農政企画課長 農政企画課、増田でございます。減容化施設といいますか、減容化の機械といいますか、が2基ありまして、それで、入り切らないというか、機械の中に入り切らないものにつきましては冷蔵庫を2基設置しておりまして、そちらのほうで保管するという流れにさせていただいております。以上でございます。
- **◆石田憲太郎分科会長** 水口委員。
- ◆水口 誠分科員 そうしましたら、その冷蔵庫の中に入れたそのものは、次の日に対応するということですか。
- ◆石田憲太郎分科会長 増田課長。
- ○増田泰則農政企画課長 農政企画課、増田です。空いてれば当然翌日に入れるとかということになろうかと思いますけども、比較的ずっと残ってたりは、結局、冷蔵庫の中にも要は置いていくと上に乗せていくんで、要は下のほうがなかなか出ていかないというような話がありますので、それの切り返しみたいなものも当然いるかと思いますけども、そういったできる限りは古いものからといいますか、を収容というか、処分していくというような状況でございます。以上でございます。
- **◆石田憲太郎分科会長** 水口委員。
- ◆水口 誠分科員 最後ですけども、一般質問なんかでもちょっと質問があったかと思うんですけど、休みのときの対応について、捕獲されるのは休日だったりすることもあると思うんですけども、そういったときの対応はどうされておられますか。
- **◆石田憲太郎分科会長** 増田課長。
- ○増田泰則農政企画課長 農政企画課、増田でございます。減容化の機械というか、施設というか、機械なんですけども、機械につきましては24時間ずっと動いているという話になります。それで、施設の受入れのお話でございますけども、基本的には月曜日から土曜日までということでさせていただいておりまして、日曜日については、要は投入作業としては必要に応じてするんですけども、受入れ自体は日曜日はしておりません。以上でございます。
- ◆石田憲太郎分科会長 そのほかございますか。中山副委員長。
- ◆中山明保副分科会長 中山です。概要書 201 ページの、いつも聞いておりますけど、また確認で、災害復旧の件ですけども、この7年度で令和5年の台風7号災の災害復旧、上段下段両方出とりますけども、状況と、それから今後、もうこれで、7年度でほぼほぼ終わってしてしま

うかという格好になるんでしょうか。以上です。

- ◆石田憲太郎分科会長 山田課長。
- 〇山田泰弘林務水産課長 林務水産課、山田です。まず、災害のほうの上段下段ありまして、上段の補助のほうから説明させていただきますと、状況で言えば、今年度発注しますと残り令和7年度、予算上げていただいとる三滝線は測量が完了し、次の年にはちょっと工事をして終わりにしてしまいたいかというイメージでおります。それで、若桜江府線のほうにつきましては、再々お伝えしていますように二十何か所まだ現在残っておりますので、手前の工事が終わったらまた測量をして工事を発注するというイメージを持っておりますので、ちょっとこちらのほうは、じゃあ、来年終わるかといったら終わらない、まだ5、6年はかかるんではないかという見通しを立てております。

それで、下段のほうの単災のほうになりますけど、こちら主に土砂撤去とかいうものがメインになっておりますけど、今年度発注します災害復旧の上手とか、そういう場所は手前をやらないと撤去できないので、それに付随するものと、あと、大きなところは、河合谷線などは去年向かいかけたんですけど、その県の工事とかでちょっと入れなくて、じゃあ、入るときになったら雪が降るのでちょっと業者さんもちょっと難しいんじゃないかという話で、中止したものを今年度もう片付けてしまいたいという予定でおります。以上です。

- **◆石田憲太郎分科会長** 中山副委員長。
- ◆中山明保分科員 分かりました。要するに、もう5、6年かかるのと、それから単独のほうも やっぱりあと2、3年はかかるというふうに理解したらいいでしょうか。
- ◆石田憲太郎分科会長 山田課長。
- **〇山田泰弘林務水産課長** そうですね、本当は1年でいきたいんですけど、今のようにちょっと 補助のほうが遅れたり、もしするならばちょっと2年はかかると思うんですけど、基本はもう 来年度には片付けていくつもりで頑張っております。以上です。
- ◆石田憲太郎分科会長 そのほかの委員さんでございますか。西村委員。
- ◆西村紳一郎分科員 事業別概要書 181 ページ、ともに目指す担い手強化支援事業費でございますが、みんなでやらいや農業支援事業、このたびの補正も 477 万円で気高の耕運機やビニールハウスが上がったわけですが、この令和 7 年のまず、どうして名前変えたのかなということを。
- **◆石田憲太郎分科会長** 増田課長。
- **〇増田泰則農政企画課長** 農政企画課、増田でございます。ともに目指すに事業名が変わったわけというのは、県が事業名を変えられたけということで、それに併せてうちのほうも事業を同じ名称に統一させていただいたというところでございます。以上でございます。
- **◆石田憲太郎分科会長** 西村委員。
- ◆西村紳一郎分科員 令和7年の新規3件ということで実施内容が上がっていますが、パイプハウスとか、田植え機というのがあるんで、この目的達成のためのプランですね、プランは意欲ある農業者というのは、面積要件がたしか400~クで取扱い収入金額が600万円かな、そんな覚えがあったんですけど、このプランのなる目標面積ね、取扱いの面積がありますが、400~クとか、収入金額何ぼというようなことがありましたね。その要件についてちょっとお尋ねし

ます。

- **◆石田憲太郎分科会長** 増田課長。
- ○増田泰則農政企画課長 農政企画課、増田でございます。機械によってその下限面積というか、これぐらいの面積は必要だろうというのは物によっていろいろあろうかと思いますけども、あとは、例えば田植え機で言ったら4条植えだと、5条だとか、6条だとかって、ランクといいますか、ランクによっても面積は変わってきますもんですから、一概に、すみません。400~クで大丈夫ですってちょっと申し上げにくんですけども、県のほうで機械導入の目安というのが当然定められておりますので、それに基づいて事業実施をさせていただいとるというところでございます。以上でございます。
- **◆石田憲太郎分科会長** 西村委員。
- ◆西村紳一郎分科員 それは具体的な面積要件や金額というのは上がっていないわけですね。
- ◆石田憲太郎分科会長 増田課長。
- ○増田泰則農政企画課長 プランの中では当然その下限面積を超えているという面積は当然示されているんですけども、物によって何ぼ面積がいるということはあるので。すみません。訂正で面積要件はない。ただ、そのプランで例えば1,000万の売上げにするというのが示されとって、なおかつその1,000万を達成しようと思うと、この機械がいるよねというような裏付けというか、考え方が必要ということでございます。以上でございます。
- **◆石田憲太郎分科会長** 西村委員。
- ◆西村紳一郎分科員 令和7年度のこの3件の内容についてお尋ねします。
- **◆石田憲太郎分科会長** 増田課長。
- ○増田泰則農政企画課長 農政企画課、増田でございます。事業別概要でいきますと一番最初にパイプハウスと書かせていただいております。パイプハウスを取り組まれる方は、一応全部で3経営体、3件というふうに書かせていだいておりますけども、そのうち2件のところがパイプハウスということで取り組まれます。1つはイチゴも含めた果樹、もう1つのほうは生姜だったかな、でパイプハウスを使われるということで伺っておるところでございます。ちなみに地域は全部鳥取地域ということでございます。あと、そのほかにつきましては、同じくその2経営体につきましては井戸に取り組みたいと。そのうち1つについては、自動潅水制御装置もつけたいということで伺っております。もう1つのほうですけども、先ほどパイプハウスと井戸申し上げましたんで、そちらのほうにつきましてはトラクターを望まれております。残りの1経営体でございますけども、こちらにつきましてはトラクターと田植え機ということで伺っているところでございます。以上でございます。
- **◆石田憲太郎分科会長** 西村委員。
- **◆西村紳一郎分科員** じゃあ、この形態というのは水稲もするということですね。
- **◆石田憲太郎分科会長** 増田課長。
- **〇増田泰則農政企画課長** すみません。説明が足りませんでした。一番最後に御説明したトラクター、田植え機については水稲でございます。以上でございます。
- ◆石田憲太郎分科会長 そのほかございますか。金田委員。

- ◆金田靖典分科員 すみません。186 の上が野生鳥獣被害防止事業費が6年度実績の見込みが1億1,000万、7年度予算も1億1,000万ということで、かなり鳥獣被害のほうが大変だな。その下に、クマ対策が出ていまして、これが前年度で50万の三角だったのが、今年度220万ということなんですけども、これは質疑が出ていまして、80件ぐらいな目撃情報があるということなんですけども、その中で2番の捕獲対策のところで、クマの安楽殺処分委託というのが載っているですけども、これクマって、保護獣になっとるんだと思うんですけども、この安楽死にする場合、それから保護獣として山に帰す場合っていうのは、どういうふうな基準で判断されておるのか教えてください。
- ◆石田憲太郎分科会長 増田課長。
- ○増田泰則農政企画課長 農政企画課、増田でございます。クマ対策事業費ということで御質問をいただきました。クマの案楽殺処分について実施するか否かみたいな話だと思いますけども、一応動物愛護という観点がございますので、基本的には山におったもんですから山に帰したいというのが基本でございますけども、民家近くに何度も来ておるというようなことであれば、当然癖がついてといいますか、常習性が認められるというようなことで、人に危害が加えられるやしれませんということで、安楽殺処分でありますとか、銃による処分とかいうようなことで、その都度、多分県と相談をしながら対応させていただいているところでございます。以上でございます。
- **◆石田憲太郎分科会長** 金田委員。
- ◆金田靖典分科員 じゃあ、明確にこういうときには山に帰すというのはないわけ。
- **◆石田憲太郎分科会長** 増田課長。
- **〇増田泰則農政企画課長** 農政企画課、増田でございます。帰す、帰さないというか、殺処分するかしないかという話になろうかと思いますけども、人が住んでいるゾーンから 200 メートル以内であれば基本的は殺処分のほうで対応するということでございます。以上でございます。
- **◆石田憲太郎分科会長** 金田委員。
- ◆金田靖典分科員 200 メートルに近づいたらということでね。扇ノ山山系が大体クマなのかなと思って、氷ノ山もそうですけど、浜坂の砂丘の辺りも時々、目獣情報が出て、それから八東のほうも、どうもあの辺りもやっぱりかなり出てくるんだというのをお聞きしたもんですからね、どうも里にかなり出てきているんだなと思うと、もう200メートルどころの話ではないな。ただ、時々やっぱりクマと共に生きるという団体もあるぐらいですから、どう共生するのかというのがね、常に問いかけられとるんかなと思ったもんですから、罠にかかった場合にはもうどうしようもない、それ殺処分するしか手がないなと思うですけども、その辺りはもう少し様子を見させていただければと思います。ありがとうございます。
- **◆石田憲太郎分科会長** そのほか質疑ございますか、西村委員。
- ◆西村紳一郎分科員 190 ページの上段、日本伐木チャンピオンシップ I N鳥取開催支援事業費です。この林業振興や担い手確保という観点から大変この大会を期待するものでございます。 意欲ある林業就業者を確保というのは、森林組合も重要な事業だというふうに考えておりますし、この 2,000 万円のうち、鳥取市の補助が 72 万円ということでございますが、これはいつど

こでどのように開催されようとしているのかお尋ねします。

- **◆石田憲太郎分科会長** 山田課長。
- 〇山田泰弘林務水産課長 林務水産課、山田です。この運営自体が県のほうがされてますんですけど、決まっていますのは令和7年10月18、19日、2日間を鳥取砂丘オアシス広場のほうで行う予定とされております。以上です。
- **◆石田憲太郎分科会長** 西村委員。
- ◆西村紳一郎分科員 10月 18、19日ですね。じゃあ、2,000万は県がほとんど事業費負担するということですか。
- **◆石田憲太郎分科会長** 山田課長。
- **〇山田泰弘林務水産課長** すみません。説明が漏れていました。今、大会経費のほうは当初 2,000 万ということでしたけども、今ちょっと増えていますけども、市町村の負担金が大体 300 万と言われておりまして、そのままそれは変わらず、300 万のうちのまずは人口割とか、就業者割とかいうとこで鳥取市の配分が 72 万円ということで受けております。以上です。
- ◆石田憲太郎分科会長 西村委員。
- ◆西村紳一郎分科員 チェーンソーを扱う、林業就業者が主だと思うんですが、この選手を集めるのや、選手選考みたいなのはどのような考えで取り組まれようとされていますか。
- ◆石田憲太郎分科会長 山田課長。
- 〇山田泰弘林務水産課長 今までの例で、取りあえずそういう組合とかの方から選抜されて、これまた個人でお金を払って、出場料を、参加されると、今回この大体 60 名、80 名ぐらいを予定されていますけど、それも組合とかから向けて練習されているとか、一生懸命取り組んでいる人は自分で登録されて、この選手権に臨まれるということを聞いております。以上です。
- **◆石田憲太郎分科会長** 西村委員。
- ◆西村紳一郎分科員 これ広く市民にPRしてという、こういうことがあるんだよというような 広報については考えておられますか。
- **◆石田憲太郎分科会長** 山田課長。
- **〇山田泰弘林務水産課長** はい。すみません。鳥取市としてはちょっと今、申し訳ない、そこは考えてない。県のほうでそういうのはPRするようになっていると思いますけど、市のほうではちょっとそこまでは今、考えておりません。
- ◆石田憲太郎分科会長 山田課長。
- 〇山田泰弘林務水産課長 すみません。その対象者が今この大会が一応お知らせするのが選手とか、林業関係者というところでして、じゃあ、本来はブースとか出して一般のお客さんも来てほしいっていう意向を持っておられますので、その辺り県のほうも考えられて、うちも何かそこでお手伝いできることがあればしていかないといけんなとは思っておりますけども、今のところその広報ということで、鳥取市、林務がするかというのはちょっとすみません。考えていなかったです。
- **◆石田憲太郎分科会長** 西村委員。
- ◆西村紳一郎分科員 県と連携して鳥取市もぴょんぴょんネットぐらいで放映していただけたら

ありがたいと思います。以上です。

◆石田憲太郎分科会長 そのほかございますか。それでは以上で質疑を終結します。執行部の皆様は御退出していただいて結構です。

分科会長報告の取りまとめ

- ◆石田憲太郎分科会長 それでは分科会長報告の取りまとめを行いたいと思います。農林水産 部・農業委員会所管の部分で皆様から出された質疑、意見について事務局より報告をしてくだ さい。橋本さん。
- ○橋本圭司議事係主任 それでは御報告いたします。質疑は、まずとっておき総合対策事業費の部分です。補助内容に関する部分です。あとは鳥取地どりブランド生産拡大支援事業補助金についてです。事業内容の部分ですとか、今後のPRに関する部分の質疑ありました。また、併せて生産羽数ですとか、支援内容に関する部分の質疑がございました。次に豊かな森づくり推進事業費の実績などに関する部分がございました。あとは減容化施設の管理運営費で、事業内容、また、処理の手順に関する部分の質疑がございました。

また、台風第7号関連の災害復旧費に関して事業完了のめどに関する部分の質疑と、ともに目指す!担い手強化支援事業費の部分で、補助内容に関する部分の質疑がございました。また、クマ対策事業費の部分で殺処分に関する質疑と、あとは伐木チャンピオンシップの事業費について、開催内容に関する部分ですとか、支援内容に関する部分の質疑がございました。以上です。

- ◆石田憲太郎分科会長 今、事務局のほうから出ました項目について説明をしていただきました。 それでは分科会長報告に盛り込むべき事項として御意見がございましたら発言をお願いしたい と思います。ちょっと私が感じた部分で言えば、事業内容だけを伺った部分とはちょっと別に 御意見があった部分で言えば、鳥取市の戦略的園芸のとっておきの部分と鳥取地どりの部分に ついてが、ちょっと意見として上がったかなっていう気はしとるところであります。戦略的園 芸についてはあれですかね、認知度が低いんじゃないかとか、また、県と市が協調して推進し てもっとやっていくべきであるという意見がございました。鳥取地どりのほうについては、さ らに拡大を図っていく必要があるんじゃないかとかいうようなこともありましたし、意見とし てその辺りがあったのかなと思ったりはしております。すみません。ちょっと勝手に意見を言 いましたけども、皆さんのほうで、長坂委員。
- ◆長坂則翁分科員 やっぱり鳥取地どりのブランド生産拡大のここら辺りをやっぱりしっかり支援をして、ブランド化を目指してく、柳くんが言ったように、やっぱり鳥取の魅力として鳥取に来れば地どりが本当に、値段もあんまり高くないだろうし、だけ、今までの予算、決算の分科会長報告にもこの課題は入ってないし、私は個人的には鳥取地どりで生産拡大支援をもっときちっとやってほしいということで、分科会長報告に入れるべきだというふうに私は思います。
- ◆石田憲太郎分科会長 そのほか委員の皆様で御意見ありますか。よろしいですか。じゃあ、鳥 取地どりのこの事業について、出たのは県予算がないのか、何で使わんだという話があり、こ の辺りはあれかな、拡大に向かっての市の考え方はどうなんだということを聞かれて、あと、

鳥取ですから、この地どりの部分等拡大していくべきだということも述べられましたので、その辺りでまとめたらどうかなとは思いますけども、それにつきましても、じゃあ、一応その辺りのところの内容であとは事務局とこちらのほうでまとめて、明日でも、また、明日確認をしてもらうというような形で進めたいと思います。よろしいですかね。よろしくお願いします。それでは以上で予算審査特別委員会文教経済分科会を閉会をし、切替えをしたいと思います。

文教経済委員会に切替え 午後3時24分 閉会

文教経済委員会 • 予算審查特別委員会 文教経済分科会 日程

日時:令和7年3月12日(水)10:00~

場所: 7階 第2委員会室

経済観光部 (10:00~)

・ー・- <文教経済委員会> ・・ー・ー・ー・ー・ー・ー・ー・ー・

◎議案【質疑・討論・採決】

議案第55号 鳥取市立温泉館の設置及び管理に関する条例の一部改正について

◎議案(追加提案分)【説明・質疑・討論・採決】

議案第69号 令和6年度鳥取市一般会計補正予算(第10号)【所管に属する部分】

◎陳情【質疑·討論·採決】

<新規>

令和7年陳情第3号

「最低賃金法の改正と中小企業支援の拡充を求める意見書」の提出を求める陳情

◎報告

鳥取市まちなかビジネス・コミュニティ再生プランの策定について

◎議案【質疑】

議案第11号 令和7年度鳥取市一般会計予算【所管に属する部分】

議案第13号 令和7年度鳥取市公設地方卸売市場事業費特別会計予算

議案第19号 令和7年度鳥取市温泉事業費特別会計予算

議案第20号 令和7年度鳥取市観光施設運営事業費特別会計予算

◎分科会長報告の取りまとめ

農林水産部・農業委員会 (経済観光部終了後)
◎議案(追加提案分)【説明・質疑・討論・採決】
議案第69号 令和6年度鳥取市一般会計補正予算(第10号)【所管に属する部分】
議案第73号 業務委託契約の締結について
<mark>◎報告</mark>
地域計画(地域農業経営基盤強化促進計画)の策定について
-·-·-·-·-·-·-· <予算審査特別委員会 文教経済分科会> -·-·-·-·-·-·-
◎議案【質疑】
議案第11号 令和7年度鳥取市一般会計予算【所管に属する部分】
◎分科会長報告の取りまとめ
その他(農林水産部・農業委員会終了後)

令和7年度文教経済委員会視察について